三　高等學校高等科理科ヲ卒業シタル者
四　高等學校高等科文科ヲ卒業シタル者
五　他ノ大學學生ニシテ轉學ヲ望ム者
六　本學部ニ於テ臨時ニ施行スル檢定試驗ニ及第シタル者
七　專門學校令ニ依ル醫學專門學校醫學科卒業者ニシテ入學試驗ニ合格シタル者

第十一條　本學部半途退學セシ者再入學ヲ願出ツルトキハ缺員アル場合ニ限リ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第十二條　入學志望者ハ別ニ定ムル書式ニ依リ願出ツヘシ

第十三條　本學部ニ於テ檢定試驗ヲ要スル者ハ受驗料金拾圓ヲ納付スヘシ
既納ノ受驗料ハ之ヲ還付セス

第十四條　第十條第二號以下各號及第十一條ニ依リ入學ヲ許可セラレタル者ハ入學料金拾圓ヲ納付スヘシ
入學ノ後出席セスシテ入學ノ取消ヲ許可セラレタル者ニハ之ヲ免除ス但シ既納ノモノハ還付セス

第十五條　外國人ニシテ本學部ニ入學セントスル者アルトキハ文部省令外國人特別入學規程ニ依リ許可スルコトアルヘシ

第十六條　外國學生ニハ本學部學生ニ關スル規定ヲ適用ス

第十七條　疾病ニヨリ二ケ月以上修學スルコト能ハサル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘテ願出テ學部長ノ許可ヲ受ケ一ケ年以內ノ休學ヲ爲スコトヲ得

第十八條　兵役ニ服スル者ハ其ノ現役又ハ召集中學部長ノ許可ヲ得テ休學ヲ爲スコトヲ得

第十九條　在學八年ヲ超ユル者ハ退學シタルモノトス但シ休學期間ハ之ヲ算入セス

第二十條　前條ノ期間內ト雖モ成業ノ見込ナシト認メタルトキハ退學ヲ命スルコトアルヘシ

第二十一條　教育上必要ト認メタル時ハ學生ニ懲戒ヲ加フルコトアルヘシ

第二十二條　退學又ハ轉學セントスル者ハ其旨願出テ許可ヲ受クヘシ

第四章　學士試驗

第二十三條　學士試驗科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一種試驗科目

解剖學
組織學
生理學
醫化學
藥物學
細菌學
病理學
內科學
外科學
產科學

第二種試驗科目

眼科學
婦人科學
皮膚病學黴毒學
小兒科學
耳鼻咽喉科學
精神病學
法醫學
衞生學

第一種ノ科目ニ就キテハ試驗ヲ行ヒ第二種ノ科目ニ就キテハ平常ノ成績又ハ他ノ方法ヲ以テ學士試驗ニ代ユルコトヲ得

第二十四條　學士試驗ヲ受クルコトヲ得ル者ハ本學部學生ニシテ學士試驗科目ノ學修證明書ヲ有スルモノニ限ル但シ敎授會ニ於テ適當ノ資格アリト認メタルモノハ此限リニアラス

第二十五條　試驗ノ成績ハ合格又ハ不合格トス

第二十六條　解剖學組織學生理學醫化學藥物學細菌學及病理學ノ試驗ニ合格シタル者ニアラサレハ其ノ他ノ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第二十七條　學士試驗ハ每學期科目修了後ニ於テ隨時之ヲ行フ

第二十八條　學士試驗ヲ受ケント欲スル學生ハ豫メ之ヲ申請スヘシ

第二十九條　受驗ヲ申請シテ出席セサル學生ニハ一定期間其試驗ヲ施行セス

第三十條　十二學期以上本學部ニ在學シ學士試驗ニ合格シタル者ニハ所定ノ證書ヲ授與ス但シ本學部半途退學々生ニシテ再入學ノ者又ハ他ノ帝國大學醫學部學生ノ轉學セル者ノ在學期間ハ之ヲ通算スルコトヲ得

第三十一條　前條ノ證書ヲ有スル者ハ醫學士ト稱スルコトヲ得

第三十二條　本學部在學ノ外國學生ニシテ高等學校高等科理科卒業ト同等以上ノ學力アリト認定セラレタルモノハ學士試驗ニ應スルコトヲ得

前項ノ學力認定ハ本人ノ願ニ依リ學士試驗結了後ニ之ヲ行フコトアルヘシ

第五章　授業料

第三十三條　授業料ハ一ケ年金百圓トス

第三十四條　授業料ハ左ノ區分ニ依リ所定ノ期間ニ徴收ス

自四月一日至七月十日　金參拾五圓
自七月十一日至十二月三十一日　金參拾五圓
自一月一日至三月三十一日　金參拾圓

第三十五條　休學又ハ停學中ノ者ト雖授業料ハ仍ホ之ヲ徴收シ但シ兵役ノ爲ニ休學シタル者ハ此限ニ在ラス

退學ノ場合ニ於テハ其期ノ授業料ヲ徴收ス

第三十六條　授業料納付期日後ニ入學又ハ復學シタル者ハ十日以內ニ之ヲ納付スヘシ

第三十七條　授業料ヲ所定ノ期日ニ納付セサル者アルトキハ催告シ停學又ハ退學ヲ命ス

第六章　服裝

第三十八條　學生ハ本學部所定ノ制服制帽ヲ着用スヘシ但シ新入學者ハ入學許可ノ日ヨリ一ケ月間之ヲ猶豫ス

第七章　專攻生

第三十九條　本學部授業擔任者ノ指導ヲ受ケ特殊事項ニツキ研究セントスル者ハ專攻生トシテ入學ヲ許可ス

第四十條　專攻生タラントスル者ハ願書ニ履歷書ヲ添ヘ指導者ヲ經テ願出ツヘシ

第四十一條　專攻生タルコトヲ得ルモノハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ要ス

一　帝國大學卒業者及大學令ニ依リ學士ト稱スルコトヲ得ル者

二　專門學校令ニ依ル專門學校卒業者

三　授業擔任者ニ於テ適當ノ學力アリト認メタル者

第四十二條　研究費ハ教室ノ設備ニ附帶スルモノノ外總テ專攻生ノ負擔トス

但シ研究ノ種類ニ依リテハ特ニ研究材料ヲ給與スルコトアルヘシ

第四十三條　入學ヲ許可セラレタル者ハ入學料金五圓ヲ納付スヘシ

本規程ハ大正十一年四月ヨリ之ヲ施行ス

一號（本學豫科卒業）

入學願書

某儀北海道帝國大學豫科卒業ノ上ハ醫學部ヘ入學志願ニ付御許可相成度此段相願候也

年　月　日

寄所

本籍地（戸主トノ續柄）

北海道帝國大學豫科生

何　某　印

何年何月何日生

北海道帝國大學醫學部長何某殿

二號（檢定試驗ヲ要セサルモノ）

入學願書

某儀某高等學校某科卒業ノ上ハ北海道帝國大學醫學部ヘ入學志願ニ付御許可相成度別紙學業履歷書及在學證明書相添ヘ此段相願候也

年　月　日

宿所

本籍地（戸主トノ續柄）

何　某　印

何年何月何日生

北海道帝國大學醫學部長何某殿

北海道帝國大學醫學部長何某殿

三號（檢定試驗ヲ要スルモノ）

入學願書

某儀北海道帝國大學醫學部ヘ入學志願ニ付御許可相成度別紙學業履歷書（卒業證書ヲアラハ其證書）及受驗料金十圓相添ヘ此段相願候也

宿所

本籍族（戶主トノ續柄）

何　某　印

年　月　日

何年何月何日生

北海道帝國大學醫學部長何某殿

○北海道帝國大學工學部學則

第一章　學年、學期、休業

第一條　學年ハ四月一日ニ初マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第二條　學年ヲ分チテ左ノ二學期トス

第一學期　四月一日ヨリ十月三十一日ニ至ル

第二學期　十一月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル

第三條　學年中定期休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

春期休業　四月一日ヨリ同七日ニ至ル

夏期休業　七月十一日ヨリ九月十日ニ至ル

冬期休業　十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

日曜日及左ノ祭祝日

秋季皇靈祭　秋分日

神嘗祭　十月十七日

天長節　祝日　十月三十一日
新嘗祭　　十一月二十三日
北海道帝國大學祝日　二月六日
紀元節　　二月十一日
春季皇靈祭　春分日

第二章　授業科目及授業

第四條　本學部ニ於テ授業スル科目及其ノ標準時間數ハ第一表ニ依ル

第五條　學生ハ前條ノ授業科目ヲ自由ニ選擇シテ學修スルコトヲ得但シ特ニ定ムル科目ハ之ヲ修メントスル前豫メ必要ナル他ノ一定ノ科目ヲ學修シ若クハ之ト同時ニ學修スルコトヲ要ス

第六條　學生ハ授業開始前ニ其ノ修メントスル科目ヲ當該科目擔任教官ニ申出ヲ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル者ハ本學部ヨリ交附スル修學簿ニ所定ノ證明ヲ受クヘシ

第七條　實驗實習及製圖ノ科目ハ一定ノ人員ヲ限リ之ヲ學修セシム若シ學修希望者數定員ヲ超過スルトキハ當該科目擔任教官ニ於テ適宜ノ方法ニ依リ學修者ヲ決定ス

第三章　入學、在學、休學、退學

第八條　入學ハ學年ノ始ヨリ三十日以内トス但シ學年開始前ニ入學ヲ許可スルコトヲ妨ケス

收容スヘキ學生ノ豫定數ハ其都度之ヲ定ム

第九條　本學部ニ入學セシムル者ハ本學部ニ進入スヘキ本學豫科修了者トス

第十條　前條ノ者ヲ收容シ尚ホ缺員アルトキハ左ノ順位ニ依リ入學ヲ許可スル者

一　學士ノ資格ヲ有スル者

二　高等學校及學習院ノ高等科理科ヲ卒業シタル者

第十一條　第九條及第十條ノ資格者ヲ收容シ尚ホ缺員アルトキハ左ニ揭クル者ニ入學ヲ許可ス

一　高等學校及學習院ノ高等科文科ヲ卒業シタル者

二　專門學校程度ノ工業學校卒業者高等師範學校本科理科卒業者及其他專門學校卒業者中適當ノ學力アリト認メタル者ニシテ學部ニ於テ施行スル檢定試驗ニ合格シタル者

第十二條　檢定試驗ハ本學豫科ノ學科目ニ付其修了程度ニ於テ之ヲ行フ但シ本學豫科ニ委託シテ之ヲ行フコトアルヘシ

第十三條　他ノ帝國大學々部長ノ承認ヲ得テ本學部ニ轉學ヲ出願スルトキハ詮議ノ上入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第十四條　本學豫科ヨリ入學スル者ハ二月十五日迄ニ左ノ區別ニ從ヒ第一志望第二志望第三志望ノ學科ヲ申出テ許可ヲ受クヘシ

土木工學科
鑛山工學科
機械工學科
電氣工學科

第十五條　本學豫科修了者以外ノ入學志望者ハ別ニ定ムル書式ニ依リ前條ノ期日迄ニ願出ツヘシ

前項ノ願書ニハ履歷書及体格檢查書ヲ添附シ出身學校ヲ經テ差出スヘシ

第十六條　第十四條及第十五條ノ期日以後ニ於テ提出セラレタル學科志望願書又ハ入學願書ハ授業上差支ナキ限リ之ヲ受理スルコトアルヘシ

但シ此場合ニ於テハ第九條第十條及第十一條ノ入學順位ヲ適用セス

第十七條　第十一條第二號ニ依ル檢定試驗ヲ要スルモノハ豫メ受驗料金拾圓ヲ納付スヘシ

既納ノ受驗料ハ受驗者ノ都合ニ依リ入學願ヲ取消スコトアルモ還附セス

第十八條　入學志望者ノ數各學科ノ豫定收容人員ヲ超過スルトキハ選拔試驗ヲ行ヒ入學者ヲ定ム

但シ場合ニ依リ考查ノ上之ヲ定ムルコトアルヘシ

第十九條　本學豫料修了者以外ノ者ハ入學許可ノ日ヨリ十日以內ニ入學料金拾圓ヲ納付スヘシ

入學料ヲ納付セサルトキハ除名ス

第二十條　疾病ニ依リ二月以上修學スルコト能ハサル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘテ願出テ學部長ノ許可ヲ得テ一年以內ノ休學ヲナスコトヲ得

休學期間內ト雖モ其ノ事故止ミタルトキハ許可ヲ得テ復學スルコトヲ得

第二十一條　兵役ニ服スル者ハ其ノ現役又ハ召集中學部長ノ許可ヲ得テ休學ヲ爲スコトヲ得

第二十二條　退學セントスル者ハ其ノ理由ヲ具シテ願出テ許可ヲ受クヘシ

第二十三條　在學六年ヲ超ユル者ハ退學シタルモノトス但シ休學期間ハ之ヲ算入セス

第二十四條　前條ノ期間內ト雖モ成業ノ見込ナシト認メタルトキハ退學ヲ命スルコトアルヘシ

第二十五條　教育上必要ト認メタルトキハ學生ニ懲戒ヲ加フルコトアルヘシ

第四章　試驗

第二十六條　學生其ノ學修シタル科目ニ就キ試驗ヲ受ケントスルトキハ每年二月十日迄ニ擔任教官ニ申出ツヘシ

第二十七條　試驗ハ每年三月期間ヲ定メテ之ヲ行フ但シ場合ニ依リ臨時之ヲ行フコトアルヘシ此試驗ノ受驗申請期日ハ其ノ都度之ヲ定ム

第二十八條　實驗實習製圖等ノ科目ハ試驗ヲ行ハスシテ其ノ成績ヲ考査スルコトアルヘシ

第二十九條　試驗ノ成績ハ各科目ニ就キ合格不合格ノ二トス

第三十條　合格シタル科目ニ對シテハ希望ニ依リ證明ヲ與フルコトアルヘシ

第五章　學士試驗

第三十一條　大學令第十條ニ依リ學士ノ稱號ヲ得ントスル者ノ爲メニ學士試驗ヲ行フ

第三十二條　學士試驗ハ左ノ四學科ノ一ニ就キ之ヲ行フ

土木工學科
鑛山工學科
機械工學科
電氣工學科

第三十三條　學士試驗ヲ受ケントスル者ハ前條ノ學科ヲ選定シ豫メ學部長ニ申請スヘシ

第三十四條　學士試驗ハ教官ノ承認ヲ得タル特別ノ問題ニ就キ學生ノ提出シタル論文ノ審査及口頭試問トス

第三十五條　學士試驗ヲ受クルニハ所選ノ學科ニ屬スル第二表ノ試驗科目ニ合格シ且別ニ定ムル所ノ實地見學及演習ヲ修了スルコトヲ要ス

第三十六條　學士試驗ハ毎年三月之ヲ行フモノトス但シ在學三年ヲ超ユルモノニ對シテハ隨時之ヲ行フコトアルヘシ

第三十七條　學士試驗ノ成績ハ合格不合格ノ二トス

第三十八條　第二表ニ規定セル以外別ニ試驗科目ヲ編成シ學士試驗ヲ受ケントスル者アルトキハ教授會ノ決議ヲ經テ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第三十九條　學士試驗ニ合格シタル者ハ工學士ト稱スルコトヲ得

第六章　授業料

第四十條　授業料ハ一年金百圓トシ左ノ三期ニ分チテ之ヲ徵收ス

第一期（自四月至七月）　金參拾五圓

第二期（自九月至十二月）　金參拾五圓

第三期（自一月至三月）　金參拾圓

授業料ハ別ニ定メタル期日ニ於テ之ヲ納付セシム

前項ノ期日以後ニ入學シタル者ハ入學許可ノ日ヨリ十日以內ニ之ヲ納ムルモノトス

第四十一條　休學又ハ停學中ノ者ト雖モ其ノ授業料ハ仍ホ之ヲ徵收ス但シ兵役ノ爲メ休學シタルモノハ此リ限ニアラス

退學ノ場合ニ於テハ其ノ期ノ授業料ハ之ヲ徵收ス

第四十二條　授業料ヲ定日內ニ納付セサル者アルキトハ催告ヲ爲シ猶ホ納付セサルトキハ退學ヲ命ス

第七章　聽講生

第四十三條　授業科目中一科目若クハ數科目ヲ選ヒ聽講セントスル者ニシテ相當學力アリト認ムルトキハ聽講生トシテ收容スルコトアルヘシ

第四十四條　聽講生ハ聽講セントスル科目ヲ各學期ノ始ニ願出ツヘシ

第四十五條　聽講生ノ聽講料ハ每學期一科目ニ付キ金拾圓トシ之ヲ前納セシ

ム

既納ノ聽講料ハ之ヲ還附セス

第八章　專攻生

第四十六條　本學部授業擔任者ノ指導ヲ受ケ特殊事項ニツキ攻究セントスルモノハ專攻生トシテ收容スルコトアルヘシ

第四十七條　專攻生タルコトヲ得ルモノハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ要ス

一　大學令ニ依ル大學及專門學校令ニ依ル學校ヲ卒業シタル者

二　授業擔任者ニ於テ適當ノ學力アリト認メタル者

第四十八條　專攻生タラントスル者ハ願書ニ攻究事項ヲ具シ履歷書ヲ添ヘ學部長ニ願出ツヘシ

第四十九條　專攻生タルコトヲ許可セラレタル者ハ其ノ許可ノ日ヨリ十日以內ニ入學料トシテ金拾圓ヲ納付スヘシ

第五十條　專攻生ノ攻究費ハ之ヲ自辨トス

第五十一條　專攻生退學セントスルトキハ學部長ニ願出ツヘシ

附　則

本學則ハ大正十四年二月十二日ヨリ之ヲ施行ス

第一表　授業科目及標準時間數

（）印ハ實習實驗又ハ製圖

科目番號	科目名	第一學期每週	第二學期每週	第五條但書ニ依ル準備科目（×印ヲ附シタルモノハ同時ニ修ムルヲ得ルモノ）
一	數學第一	三	三	
二	數學第二	二	二	
三	數學力學應用力學	二	二	數學第一×
四	力學	〇	三	
五	物理學第一	二	二	
六	物理學第二	（三）	隔週	
七	物理學實驗第一	（六）	（三）	
八	物理學實驗第二	（〇）	〇	
九	物理學實驗第三	二	〇	
一〇	物理化學	三		
一一	電氣化學			

科目番號	科目名	第一學期每週	第二學期每週	第五條但書ニ依ル準備科目（×印ヲ附シタルモノハ同時ニ修ムルヲ得ルモノ）
一二	工業化學			
一三	化學分析（定性）	（三）	（三）	化學分析（定性）×
一四	化學分析（定量）	（三）	（三）	
一五	應用力學（甲）	二	二	力學×
一六	應用力學（甲）演習	（三）	（三）	
一七	應用力學（甲）實驗	一	一	
一八	應用力學（乙）	四	二	數學第一×
一九	機械力學	（四）	（五）	
二〇	構造力學	二	二	數學第一×
二一	構造力學演習製圖	二	一	
二二	流體力學	〇	〇	
二三	地質學第一	二	一	數學第一×
二四	地質學第二	二	〇	
二五	實用地質學	（三）	（〇）	
二六	實用地質學實習			

二七	鑛物學	一	二	物理學第一×　物理學第三×
二八	鑛物學實驗	(二)	(二)	物理學第一×　物理學第三×
二九	岩石學	一	二	
三〇	岩石學實驗	(二)	(二)	
三一	測量第一	三	〇	
三二	測量第二	〇	三	測量第一
三三	測地學	〇	二	數學第一　物理學第一
三四	測量實習製圖(甲)	(三)(六)(七)	(〇)(〇)(六)	
三五	測量實習製圖(乙)			
三六	鑛山測量	〇	二	測量第一
三七	鑛山測量實習	隔(三)	(〇)	
三八	建築構造(甲)	二	二	
三九	建築構造(甲)設計製圖	(四)	(〇)	
四〇	建築構造(乙)	二	〇	
四一	土木工學大意	二	二	

四二	電氣工學大意第一	二	二	
四三	電氣工學大意第二	三	三	電氣工學大意第一
四四	電氣工學大意實驗第一	(〇)	(六)	
四五	電氣工學大意實驗第二	(三)	(〇)	
四六	電氣工學大意實驗第三	(〇)	隔(三)	
四七	工業經濟	〇	二	
四八	財政及金融	〇	二	
四九	學外實習			
五〇	土木材料及施工法	二	二	
五一	土木材料及施工法實驗	(二)	(〇)	
五二	道路及街路	〇	二	
五三	混凝土工學	二	二	構造力學×
五四	混凝土工學設計及演習	(二)	(四)	
五五	橋梁學	四〇	三二	構造力學×
五六	橋梁學設計及製圖	(六)(四)	(二)(五)	

五七	鐵道工學第一(甲)	三二	〇二	
五八	鐵道工學第一(甲)設計及製圖	(六)(〇)	(〇)(二)	
五九	鐵道工學第一(乙)	二	二	
六〇	鐵道工學第一(乙)設計及製圖	(〇)	(二)	
六一	鐵道工學第二(甲)	三二	〇二	
六二	鐵道工學第二(甲)設計及製圖	(六)(〇)	(〇)(二)	
六三	鐵道工學第二(乙)	二	二	
六四	鐵道工學第二(乙)設計及製圖	(〇)	(二)	
六五	隧道	二	〇	
六六	水工學第一(甲)	三二	〇二	流體力學×
六七	水工學第一(甲)設計及製圖	(六)(〇)	(〇)(二)	
六八	水工學第一(乙)	二	二	流體力學×
六九	水工學第一(乙)設計及製圖	(〇)	(二)	
七〇	水工學第二(甲)	三二	〇二	流體力學×
七一	水工學第二(甲)設計及製圖	(六)(〇)	(二)(二)	

七二	水工學第二(乙)	二	二	流體力學×
七三	水工學第二(乙)設計及製圖	(〇)	(二)	
七四	衞生工學	二	二	流體力學×
七五	地震學	二	〇	
七六	土木行政法	二	〇	
七七	實驗機械工學	一	〇	數學力學應用力學 熱機關大意
七八	實驗機械工學實習	(〇)	隔(三)	
七九	金屬工學	二	二	
八〇	金屬材料	〇	二	
八一	採鑛學第一	三	三	
八二	採鑛學第二	三	三	
八三	採鑛學實驗	(〇)	隔(三)	化學分析定量及定性 瓦斯分析實習
八四	選鑛學	三	三	物理學實驗第一 物理學實驗第三
八五	團鑛學	〇	一	
八六	選鑛學及團鑛學實驗	(三)	(〇)	化學分析定性及定量× 試金實習×

八七	鑛山機械學	三	三	數學力學應用力學
八八	材料運搬法	〇	二	
八九	鑛床學	二	三	地質學第一 地質學第二 鑛物學 岩石學
九〇	鑛床學實驗	(〇)	(二)	
九一	火藥學及實驗	隔三	〇	化學分析(定性)× 化學分析(定量)×
九二	試金實習	(〇)	隔(三)	
九三	瓦斯分析	(〇)	隔(三)	
九四	驗熱實驗	(二)	(〇)	
九五	鑛山工學計畫及製圖第一	(六)	(六)	機械設計法×
九六	鑛山工學計畫及製圖第二	(九)	(九)	鑛山工學計畫及製圖第一
九七	鑛山衞生	一	〇	
九八	鑛山勞働	一	〇	
九九	鑛山保安	〇	一	
一〇〇	鑛山法律	二	〇	
一〇一	鑛山管理	一	〇	

一〇二	鑛山工學特別講義			
一〇三	鑛山工學特別實驗			
一〇四	機構學	一	一	
一〇五	水力機第一	二	二	流體力學
一〇六	水力機第二	二〇	〇一	水力機第一
一〇七	機械材料及工作學	四	二	
一〇八	機械材料特論	一	一	機械材料及工作學
一〇九	機械工作法	〇	二	
一一〇	熱力學	二	一	數學第一×
一一一	熱機關大意	二	二	
一一二	熱機關第一	三	三	
一一三	熱機關第二	二	二	熱機關大意
一一四	熱機關第三	二	二	
一一五	熱機關第四	二	〇	熱機關第一 熱機關第二
一一六	燃料學	一	二	熱機關大意

一一七	機械設計法	一	一	機械設計法×
一一八	機械製圖第一(甲)	(一〇)	(一〇)	機械設計法×
一一九	機械製圖第一(乙)	(九)	(〇)	機械製圖第一
一二〇	機械製圖第二	(九)	(九)	機械製圖第二
一二一	機械製圖第三	(一四)	(〇)	物理學第一×
一二二	機械工學實驗第一	(一〇)(六)	(三)(三)	物理學第二×
一二三	機械工學實驗第二	(九)	(〇)	機械工學實驗第一
一二四	工場實習	(三)	(〇)	機械材料及工作學
一二五	工場管理	〇	二	
一二六	操重機	二	〇	力學應用力學 水力機第一
一二七	氣體壓縮機	二	〇	熱力學熱機關第一×
一二八	煖房換機	〇	二	熱力學
一二九	冷凍冷藏	〇	二	熱力學 熱機關第一×
一三〇	製紙機械	二	〇	機構學
一三一	紡織機械	三	〇	機構學

一三二	舶用機械	二	〇	熱機關第一 熱機關第二
一三三	送・風機	二	〇	水力機第二
一三四	工作機械	一	二	機械材料及工作學×
一三五	鐵道車輛及機關車	二	〇	熱機關大意
一三六	自動車	二	〇	熱機關第二×
一三七	原動所設計	二	〇	熱機關大意
一三八	電氣磁氣學	三	三	
一三九	電氣磁氣學演習	(〇)	三	電氣磁氣學×
一四〇	電氣磁氣測定法	二	〇	
一四一	電氣機械第一	〇	三	
一四二	電氣機械第二	四	四	電氣機械第一
一四三	電氣機械第三	三	〇	電氣機械第二
一四四	交流理論	三	三	
一四五	送電及配電	三	三	
一四六	電燈及照明	三	〇	

一四七	電力應用	〇	三
一四八	電氣計器	二	〇
一四九	電氣器具	二	〇
一五〇	電信電話	三	〇
一五一	電氣鐵道	三	〇
一五二	過渡現象論	〇	二
一五三	電氣法規	一	〇
一五四	高周波工學	〇	三
一五五	電氣機械設計法	〇	三
一五六	電機製圖第一	(〇)	(六)
一五七	電機製圖第二	(九)	(九)
一五八	電機製圖第三	(九)	(九)
一五九	電氣實驗第一	(〇)	(九)
一六〇	電氣實驗第二	(九)	(九)
一六一	電氣實驗第三	(六)	(〇)

電機製圖第一
電機製圖第二
電氣磁氣測定法
電氣實驗第一
電氣實驗第二

第二表　標準課程表

土木工學科

×印ハ參考科目其ノ他ハ試驗科目

科目番號	科目名	第一年 第一學期	第一年 第二學期	第二年 第一學期	第二年 第二學期	第三年 第一學期	第三年 第二學期
一	數學第一	三	三				
二	數學第二					二	二
四	力學	〇	三				
五	物理學第一	二	〇				
九	物理學實驗第三	(〇)	隔(三)				
二〇	構造力學	四	二				
二一	構造力學演習及製圖	(四)	(五)				
二二	流體力學	二	一				
二三	地質學第一	二	〇				
二六	×實用地質學實習	(三)	(〇)				

三一	測量第一	三	○				
三二	測量第二	○	三				
三三	測地學					○	二
三四	測量實習製圖（甲）	(七)	(六)	(六)	(○)		
三八	建築構造（甲）			二	二		
三九	建築構造（甲）設計製圖					(四)	(○)
四二	電氣工學大意第一	二	二				
四五	電氣工學大意實驗第二			(三)	(○)		
四七	工業經濟					○	二
四八	×財政及金融					○	二
四九	學外實習						
五〇	土木材料及施工法	二	二				
五一	土木材料及施工法實驗			(二)	(○)		
五二	道路及街路	○	二				
五三	混凝土工學			二	二		

五四	混凝土工學設計及演習			(二)	(四)		
五五	橋梁學	○	二	四	三		
五六	橋梁學設計及製圖			(四)	(五)	(六)	(○)
五七	(イ)鐵道工學第一（甲）			二	二	三	○
五八	(イ)鐵道工學第一（甲）設計及製圖			(○)	(二)	(六)	(○)
五九	(ロ)鐵道工學第一（乙）			二	二		
六〇	(ロ)鐵道工學第一（乙）設計及製圖			(○)	(二)		
六一	(イ)鐵道工學第二（甲）			二	二	三	○
六二	(イ)鐵道工學第二（甲）設計及製圖			(○)	(二)	(六)	(○)
六三	(ロ)鐵道工學第二（乙）			二	二		
六四	(ロ)鐵道工學第二（乙）設計及製圖			(○)	(二)		
六五	隧道					二	○
六六	(ロ)水工學第一（甲）		○	二	二	三	
六七	(ロ)水工學第一（甲）設計及製圖			(○)	(二)	(六)	(○)
六八	(イ)水工學第一（乙）			二	二		

科目番號	科目名	第一年 第一學期	第一年 第二學期	第二年 第一學期	第二年 第二學期	第三年 第一學期	第三年 第二學期
六九	(イ)水工學第一(乙)設計及製圖						
七〇	(ロ)水工學第二(甲)						
七一	(ロ)水工學第二(甲)設計及製圖						
七二	(イ)水工學第二(乙)						
七三	(イ)水工學第二(乙)設計及製圖						
七四	衞生工學						
七五	地震學						
七六	土木行政法						
八〇	金屬材料						
一〇四	機構學						
一〇五	水力機第一						
一一一	熱機關大意						
一三五	(イ)×鐵道車輛及機關車						
一五一	(イ)×電氣鐵道						

備考　(イ)(ロ)ノ內任意其ノ一ヲ選修スヘシ

科目番號	科目名	第一年 第一學期	第一年 第二學期	第二年 第一學期	第二年 第二學期	第三年 第一學期	第三年 第二學期
三	數學、力學、應用力學						
五	物理學第一						
九	物理學實驗第三						
一〇	×物理化學						
一二	工業化學						
一三	化學分析(定性)						
一四	化學分析(定量)						
二二	流體力學						
二三	地質學第一						
二四	地質學第二						
二五	實用地質學						

鑛山工學科

二六	實用地質學實習			(三)	(〇)		
二七	鑛物學	一	二				
二八	鑛物學實驗	(二)	(二)				
二九	岩石學	一	二				
三〇・	岩石學實驗	(二)	(二)				
三一	測量第一	三	〇				
三五	測量實習製圖（乙）	(三)	(〇)				
三六	鑛山測量	〇	二				
三七	鑛山測量實習			隔(三)	(〇)		
四〇	×建築構造（乙）					二	〇
四一	土木工學大意	二	二				
四二	電氣工學大意第一	二	二				
四三	電氣工學大意第二			三	三		
四六	電氣工學大意實驗第三	〇	隔(三)				
四七	×工業經濟			〇	二		

四八	×財政及金融					〇	二
四九	學外實習						
七七	實驗機械工學			一	〇		
七八	實驗機械工學實習			(〇)	隔(三)		
七九	金屬工學			二	二		
八一	採鑛學第一	三	三				
八二	採鑛學第二			三	三		
八三	採鑛學實驗			(〇)	隔(三)		
八四	選鑛學			三	三		
八五	圖鑛學			〇	一		
八六	選鑛學及圖鑛學實驗					隔(三)	(〇)
八七	鑛山機械學			三	三		
八八	材料運搬法			〇	二		
八九	鑛床學			二	三		
九〇	鑛床學實驗			(〇)	(二)		

科目番號	科目名	第一年 第一學期	第一年 第二學期	第二年 第一學期	第二年 第二學期	第三年 第一學期	第三年 第二學期
九一	火薬學及實驗			隔三	〇		
九二	試金實習			(〇)	(三)		
九三	瓦斯分析			(〇)	(三)	隔(二)	(〇)
九四	驗熱實驗						
九五	鑛山工學計畫及製圖第一	(六)	(六)				
九六	鑛山工學計畫及製圖第二			(九)	(九)		
九七	鑛山衞生					一	〇
九八	鑛山勞働					一	〇
九九	鑛山保安					〇	一
一〇〇	鑛山法律					二	〇
一〇一	鑛山管理					一	〇
一〇二	鑛山工學特別講義						
一〇三	鑛山工學特別實驗						
一一一	熱機關大意	二	二		二		
一一六	燃料學			一			
一一七	機械設計法	一	一				
一四七	×電力應用					〇	三

機械工學科

科目番號	科目名	第一年 第一學期	第一年 第二學期	第二年 第一學期	第二年 第二學期	第三年 第一學期	第三年 第二學期
一	數學第一	三	三				
二	數學第二			二	二		
四	力學	〇	三				
五	物理學第一	二	〇				
六	物理學第二	〇	二				
七	物理學實驗第一	(三)	(三)				
一五	應用力學(甲)	三	三	二	二		
一六	應用力學(甲)演習	(三)	(〇)				
一七	應用力學(甲)實驗	(三)	(三)				

一九	機械力學			一	一		
二二	流體力學	二	一				
三一	×測量第一					三	○
四〇	×建築構造（乙）					二	○
四二	電氣工學大意第一	二	二				
四三	電氣工學大意第二			三	三		
四四	電氣工學大意實驗第一			(○)	(六)		
四七	工業經濟					○	二
四九	學外演習						
七九	金屬工學			二	二		
一〇四	機構學	一	一				
一〇五	水力機第一			二	二		
一〇六	水力機第二			○	一	二	○
一〇七	機械材料及工作學	四	二				
一〇八	機械材料特論			一	一		

一一〇	熱力學			二	一		
一一一	熱機關大意	二	二				
一一二	熱機關第一			三	三		
一一三	熱機關第二			二	二		
一一五	熱機關第四					二	○
一一六	燃料學			一	二		
一一七	機械設計法						
一一八	機械製圖第一（甲）	一	一				
一二〇	機械製圖第二	(一〇)	(一〇)	(九)	(九)		
一二一	機械製圖第三					(四)	(○)
一二二	機械工學實驗第一			(六)	(三)		
一二三	機械工學實驗第二	(○)	(三)			(九)	(○)
一二四	工場實習			(三)	(○)		
一二五	×工場管理法					○	二
一二六	操重機					二	○

電氣工學科

備考　括弧ヲ付セル科目（一二六乃至一三七）ノ内任意三科目ヲ選修スヘシ

科目番號	科目名	第一年 第一學期	第一年 第二學期	第二年 第一學期	第二年 第二學期	第三年 第一學期	第三年 第二學期
一二七	氣體壓縮機						
一二八	煖房換氣						
一二九	冷凍冷藏			○			
一三〇	製紙機械				一		
一三一	紡織機械					二	三
一三二	船用機械					二	三
一三三	送風機					二	三
一三四	工作機械					二	三
一三五	鐵道車輛及機關車					二	三
一三六	自動車					二	三
一三七	原動所設計					二	三
一四七	×電力應用					二	三

科目番號	科目名	第一年 第一學期	第一年 第二學期	第二年 第一學期	第二年 第二學期	第三年 第一學期	第三年 第二學期
一	數學第一	三	三				
二	數學第二	二	二	二	二		
四	力學	二	二				
五	物理學第一	二	二				
六	物理學第二	二	二				
八	物理學實驗第二	(六)	(〇)			三	〇
一一	電氣化學	〇	〇				
一八	應用力學（乙）	二	二			二	二
二二	流體力學	二	二				
三一	測量第一	二	一				
三五	測量（乙）實習	三	〇				
四〇	製圖	(三)	(〇)			二	〇
四一	建築構造（乙）					二	二
	土木工學大意					二	二

一四七	工業經濟					〇	二
一四九	學外實習						
一八〇	金屬材料					〇	二
一〇四	機構學	一	一				
一〇五	水力機械第一			二	二		
一〇九	機械工作法			〇	二		
一一一	熱機關大意	二	二				
一一四	熱機關第三			二	二		
一一六	(イ)燃料學					一	二
一一七	機械設計法	一	一				
一一九	機械製圖第一(乙)	(九)	(〇)				
一三七	原動所設計					二	〇
一三八	電氣磁氣學	三	三				
一三九	電氣磁氣學演習	(〇)	(三)				
一四〇	電氣磁氣測定法	二	〇				

一四一	電氣機械第一	〇	三				
一四二	電氣機械第二			四	四		
一四三	電氣機械第三					三	〇
一四四	交流理論			三	三		
一四五	送電及配電			三	三		
一四六	電燈及照明			三	〇		
一四七	電力應用			〇	三		
一四八	電氣計器			二	〇		
一四九	電氣器具					二	〇
一五〇	電信電話					三	〇
一五一	電氣鐵道					三	〇
一五二	過渡現象論					〇	二
一五三	電氣法規					一	〇
一五四	(ロ)高周波工學					〇	三
一五五	(ハ)電氣機械設計法					〇	三

一五六	電氣製圖第一			
一五七	電氣製圖第二		(○)	(○)
一五八	電氣製圖第三		(九)	(六)
一五九	電氣實驗第一		(九)	(九)
一六〇	電氣實驗第二		(九)	(九)
一六一	電氣實驗第三		(六)	(九)
			(○)	(九)

備考　(イ)(ロ)(ハ)ノ内任意一科目ヲ選修スヘシ

一號（本學豫科修了者）

學科志望願書

私儀工學部入學ノ上ハ左記ノ學科志望ニ付御許可相成度此段相願候也

志望學科　第一　第二　第三

年　月　日

北海道帝國大學工學部長殿

二號（檢定試驗ヲ要セサルモノ）

入學願書

私儀某高等學校某科卒業ノ上ハ北海道帝國大學工學部へ入學志願ニ付御許可相成度別紙履歷書及体格檢查書相添此段相願候也

志望學科　第一　第二　第三

年　月　日

北海道帝國大學豫科三年英語　組生

何　某　印

年　月　日生

宿所

本籍地（戶主トノ續柄）

何　某　印

年　月　日生

北海道帝國大學工學部長殿

三號（檢定試驗ヲ要スルモノ）

入學願書

私儀北海道帝國大學工學部へ入學志願ニ付御許可相成度別紙履歷書体格檢查書及（卒業證書アラバ其ノ證書寫　在學中ナラバ在學證明書添付）受驗料金拾圓相添此段相願候也

志望學科　第一
　　第二
　　第三

年　月　日

宿所
本籍地（戶主トノ續柄）
何　某　印
年　月　日生

北海道帝國大學工學部長殿

○北海道帝國大學農學部農學實科及林學實科規則

第一章　目的、定員、修業年限

第一條　農學實科並ニ林學實科ハ各農業並ニ林業ニ必要ナル高等教育ヲ授クルヲ以テ目的トス

第二條　各科生徒ノ定員ハ各九十名トス

第三條　各科ノ修業年限ハ三箇年トス

第二章　學年、學期、休業

第四條　學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第五條　學年ヲ左ノ三學期ニ分ツ

第一學期　四月一日ヨリ七月十日ニ至ル

第二學期　七月十一日ヨリ十二月二十四日ニ至ル
第三學期　十二月二十五日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル

第六條　休業日ハ左ノ如シ

日曜日
大祭祝日
北海道帝國大學祝日　二月六日
春期休業　四月一日ヨリ同七日ニ至ル
夏期休業　七月十一日ヨリ九月十日ニ至ル
冬期休業　十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル
實驗實習ハ休業日ト雖課スルコトアルヘシ

第三章　學科課程

第七條　各科ノ學科目及毎週授業時數左ノ如シ但シ實驗實習等ノ都合ニヨリ毎週授業時間ヲ增減スルコトアルヘシ

科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
修身	一	一	一	一	一	一			
英語	三	三	三	三	三	二			
物理學	二	二	二						
氣象學	一	二							
無機化學	二	二	二						
有機化學				三	三	三			
生物化學									
地質學	三	一							
土壤學		二	三	二	二	二			
肥料學				三	二	二			
土地改良學									

測量學	二	一							
植物學	四	二	三						
植物病理學				二	二	二			
應用動物學	二	二	二						
應用昆虫學				二	二	二			
作物學		二	二	四	二	三	二	二	二
育種學						二	二		
園藝學		二	一	二	二	二	二		
農具學	二								
養蠶學				三	三	二			
應用菌學			三						
農產製造學							二	二	二
家畜飼養學							一	二	
畜產學							三	三	三

畜產製造學							二	二	二
經濟學	二	二	二						
農業經營學				二	三	三			
法學通論							二	二	二
農政學							二	二	二
農學特別講義								一	一
獨語							（二）	（二）	（二）
植民學								（二）	（二）
獸醫學							（二）	（二）	（二）
林學							（二）	（二）	（二）
兵式體操	二	二	二	二	二	二	二	二	二
化學實驗				一回	一回	一回			
植物學及動物學實驗	一回	一回	一回						
植物病理學及應用昆虫學實驗				一回	一回	一回			

農學實驗																							
養蠶學實驗若クハ實習																							
測量實習及製圖	一回	一回																					
農業實習	三回	二回																					
專攻科目			二六	二六	二六	二七	二七	二六	一回以上	一回以上	一回以上	一回以上	一回以上	一回以上	一回以上	一回以上	一回以上	一回以上	一回以上	一回以上	一回以上	一回以上	一回以上	一回以上
合計	四回	四回	四回	四回	四回	五回	五回	五回	三回以上	三回以上	三回以上	三回以上	三回以上	三回以上	三回以上	三回以上	三回以上	三回以上	三回以上	三回以上	三回以上	三回以上	三回以上	三回以上

備考

一　表中括弧ヲ附セルハ選擇科目ニシテ生徒ハ其ノ一ヲ選ヒテ必修スルモノトス
但シ志望ニヨリ他ノ科目ヲ聽講スルコトヲ得

二　表中不定トアルハ學年試驗結了後ニ課スル實驗及實習トス

三　專攻科目ハ農藝化學植產學養蠶學農業生物學畜產學農業經營學トシ主トシテ實驗實習及演習ヲ課ス

四　第三學年生徒ハ專攻科目中一ヲ選ヒテ必修スルモノトス

林學實科

科目	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
修身	一	一	一	一	一	一	一	一	一
英語	三	三	三	三	三	三	二	二	二
數學	四	四	二						
物理學	二	二							
化學				二	二	二			
地質學	三	一							
土壤學		二	三						
氣象學	一	二							
森林植物學	三	三	三						
樹病學				(二)	(二)				
森林動物學	二	二	二						

法學通論	二	二	二						
經濟學				二	二	二			
財政學					(二)	(二)			
森林測量學	二	二	二	二					
森林數學				四	三	二			
森林土木學				二	二	二	二	二	
造林學			二	二	二	二	二	二	
森林保護學						二	二	二	
森林利用學				二	二	二	二	二	
林產製造學							二	二	二
森林經理學						三	三	二	二
林政學及森林管理學							四	四	三
森林法律學				二	三	二			
救急療法								二	
林學特別講義									二
狩獵術									(二)
農學及畜產學大意							(三)	(三)	
獨語				(二)	(二)	(二)	(二)	(二)	(二)
兵式體操	二	二	二	二	二	二	二	二	二
化學實驗						一回			
森林植物學實驗	一回	一回	一回						
森林動物學實驗	一回	一回	一回						
森林測量學實習及製圖		一回	一回	一回					
森林數學實習				一回	一回				
森林土木學實習						一回	一回		
造林學實習				一回	一回		一回	一回	
森林利用學實驗及實習					一回			一回	
林產製造學實驗及實習							一回	一回	

森林經理學實習									
實地演習	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	一回
合計	二回	三回	三回	三回	二回	三回	四回	一回	一回
				(四)	(六)	(四)	(五)	(五)	(四)
	二七	二八	二六	二四	二二	二五	二二	二三	一四

備考

表中括弧ヲ附セルハ選擇科目ニシテ內二科目ヲ選擇スルモノトス

第四章　入學、在學、休學、退學

第八條　入學ハ學年ノ始メニ於テス

第九條　入學資格ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ且體格檢查ニ合格シタル者トス

一　中學校ヲ卒業シタル者

二　專門學校入學者檢定規程ニヨリ試驗檢定ニ合格シタル者

三　文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

第十條　入學ヲ志望スル者ハ入學志願者名票ニ所定ノ事項ヲ記入シ檢定料ヲ添ヘ本學ニ差出スヘシ

第十一條　檢定料ハ金五圓トス

納付シタル檢定料ハ還付セサルモノトス

第十二條　入學志望者豫定人員ニ超過スル時ハ選拔試驗ヲ行ヒ其ノ成績優良ナル者ヨリ順次入學セシム但シ高等學校大學豫科入學者無試驗檢定規程ニ據ルコトヲ得

第十三條　入學ヲ許可セラレタル者ハ指定ノ期日マテニ入學料金三圓ヲ納付スヘシ

入學ノ後出席セスシテ入學ノ取消ヲ許可セラレタル者ニハ之ヲ免除ス但シ既納ノモノハ還付セス

第十四條　病氣又ハ已ムヲ得サル事故ニヨリ缺席シタル者ハ三日以內ニ其旨屆出ツヘシ

病氣缺席七日以上ニ及フ者ハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第十五條　疾病又ハ特別ノ事故ニヨリ二箇月以上修學スルコト能ハサル者ハ願ニヨリ許可ヲ得テ該學年間休學スルコトヲ得

疾病ニヨルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第十六條　休學ヲ許可セラレタル者ハ次學年ノ始ヨリ原學年ノ課程ヲ履修スルモノトス

第十七條　兵役ニ服スル者ハ其ノ服役中休學ヲ許可ス

滿期後ハ直ニ原學年ニ復歸スヘシ

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ退學ヲ命ス

一　性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二　學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三　引續キ一年以上缺席シタル者

四　正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者

五　出席常ナラサル者

兵役ニ服スルカ爲メ休學シタル期間ハ前項第三號ノ缺席日數ニ算入セス

第十九條　退學セントスル者ハ其ノ事由ヲ詳記シテ願出テ許可ヲ受クヘシ

第五章　試驗、卒業、稱號

第二十條　試驗ヲ分チテ臨時試驗及學年試驗トス

第二十一條　臨時試驗ハ學年中教官ノ見込ヲ以テ臨時ニ之ヲ行ヒ學年試驗ハ學年ノ終ニ於テ之ヲ行フモノトス但シ學年末前ニ完了シタル學科目ニ就キテハ完了ノ當時之ヲ施行スルコトアルヘシ

第二十二條　各學科目及實習ノ評點ハ各一百ヲ以テ最高點トス

第二十三條　學年試驗結了後ニ課シタル實驗及實習ノ評點ハ之ヲ次學年ノ評點ニ算入ス

第二十四條　各學科目及實習ノ學年評點ハ臨時試驗ノ平均評點ニ學年試驗評點ヲ加ヘ二分シテ定ムルモノトス

第二十五條　各學科目ノ學年評點五十以上學年總平均點六十以上ヲ以テ及第トス但シ學年評點五十未滿ノモノ一科目アルモ其ノ點數四十以上ナルトキハ亦同シ

第二十六條　試驗ニ缺席シタルトキハ其學科目ニ零點ヲ付ス

疾病又ハ特別ノ事故ニヨリ缺席シタル者ニ限リ追試驗ヲ受ケシムルコトアルヘシ

第二十七條　生徒ハ第三學年ノ終ニ於テ卒業報文ヲ提出スルモノトス

第二十八條　各學年ノ試驗ニ及第シ卒業報文ニ合格シタル者ハ卒業トス

第二十九條　卒業シタル者ハ其ノ學科ニ從ヒ農學得業士又ハ林學得業士ト稱スルコトヲ得

第六章　特待生

第三十條　學術優等品行方正ナル者ヲ選ヒテ特待生トナス

特待生ハ每學年之ヲ定ム

第三十一條　特待生ニハ授業料ヲ免除ス

第三十二條　特待生其ノ資格ヲ損スルトキハ之ヲ廢罷ス

第七章　懲戒

第三十三條　規則命令ニ違背シ風紀ヲ紊亂シ其ノ他生徒タル本分ニ背戻スル者ハ之ヲ懲戒ス

第三十四條　懲戒ハ譴責停學除名ノ三種トス

第八章　授業料

第三十五條　授業料ハ一學年金六十五圓トス

左ノ三期ニ分チ下記ノ期間ニ於テ納付スヘシ

第一期　金二十圓　四月八日ヨリ同月二十日ニ至ル

第二期　金二十五圓　九月十一日ヨリ同月二十日ニ至ル

第三期　金二十圓　一月八日ヨリ同月二十日ニ至ル

第三十六條　授業料納付期限後ニ入學シタル者ハ入學許可ノ日ヨリ十日以內ニ之ヲ納付スルモノトス

第三十七條　授業料ノ納付ヲ怠リ未納三週間ニ及フ者ハ其ノ學籍ヲ除ク

第三十八條　授業料ハ休學停學ノ場合ト雖之ヲ徵收ス但シ兵役ニヨル休學中ノ者ニハ次期以後ノ分納ヲ免除ス

退學ノ場合ニ於テハ其ノ期ノ授業料ハ之ヲ徵收ス

第九章　服制

第三十九條　生徒ハ別ニ定ムル所ニヨリ一定ノ服裝ヲナスヘシ

第十章　奬學貸費

第四十條　奬學貸費ニ關シテハ別ニ定ムル所ニヨル

第十一章　研究生

第四十一條　各科卒業生ニシテ更ニ特殊ノ事項ニ就キ研究セント欲スル者ニハ研究生トシテ在學ヲ許可スルコトアルヘシ

第四十二條　研究生ノ在學期間ハ二箇年以内トス

第四十三條　研究生ハ教官ノ指導ヲ受ケ研究ニ從事スルモノトス

第四十四條　研究生ハ在學期ノ終ニ於テ研究報文ヲ作リ指導教官ヲ經テ農學部長ニ提出スルモノトス

其ノ成績佳良ナル者ニハ證明書ヲ附與スルコトアルヘシ

第四十五條　研究生ニハ特ニ規定シタルモノノ外本規則ヲ準用ス

附則

則ハ大正八年九月十一日ヨリ施行ス

本則施行ノ際現ニ第二學年以上ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目及其授業時數ニ關シテハ本則ヲ參酌シ總長別ニ之ヲ定ム

本則施行以前ヨリ在學スル生徒ノ授業料金額ハ二箇年間從前ノ規定ニヨル

授業料金額ニ關シテハ大正十一年度以後入學ノ生徒ニ對シテ之ヲ適用ス

現ニ在學ノ生徒ハ從前ノ規定ニ依ル但シ二箇年後ハ本則ノ適用ヲ受クルモノトス

○北海道帝國大學豫科規則

第一章　目的

第一條　北海道帝國大學豫科ハ同大學各學部ニ入學セントスル者ニ對シテ高等普通教育ヲ授クルヲ以テ目的トス

第二章　學年、學期、休業

第二條　學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第三條　學年ヲ左ノ三學期ニ分ツ

第一學期　四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期　九月一日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

第三學期　一月八日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第四條　休業日ハ左ノ如シ

日曜日

大祭祝日

北海道帝國大學祝日

春期休業　二月六日

夏期休業　四月一日ヨリ四月十日ニ至ル

冬期休業　七月十一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

第三章　學科課程

第五條　豫科ノ課程ヲ三學年ニ分ツ

各學年ノ學科目及毎週教授時數左ノ如シ

學科目 ＼ 學年	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
國語及漢文	四	二	
第一外國語	八	六	六
第二外國語	(四)	(四)	(四)

數學	四	四	四（二）
物理		三	講義三 實驗二 五
化學		三	講義三 實驗二 五
植物及動物	二	二	（講義二 實驗二 四）
鑛物及地質	二		
心理		二	
法制及經濟	二		
圖畫	二	二	（二）
體操	三	三	三
計	二八（三二）	二八（三二）	二八（三二）

第三學年ノ數學(二)及圖畫(二)ト第三學年ノ植物及動物(講義二實驗二)トハ生徒ヲシテ其ノ一ヲ選擇セシム

第一外國語ハ英語トシ第二外國語ハ獨語トス但シ志望ニヨリ獨語ヲ第一外國語トシ英語ヲ第二外國語トスルコトヲ得

前項ノ場合ハ左ノ教授時數ニ依ル

學科目＼學年	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語	一〇	九	九
第二外國語	（三）	（三）	（三）

第二外國語ハ隨意科トシ之ヲ履修セサル者ニ對シテハ便宜他ノ授業ヲ施スコトアルヘシ

第四章　入學、在學、休學、退學

第六條　入學ハ學年ノ始メニ於テス

第七條　入學資格ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ且體格檢査ニ合格シタル者トス

一　中學校第四學年ヲ修了シタル者

二　高等學校尋常科ヲ修了シタル者

三　高等學校高等科入學資格試驗ニ合格シタル者

四　專門學校入學者檢定規程ニヨリ試驗檢定ニ合格シタル者
五　文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ指定シタル者
六　文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

第八條　入學ヲ志望スル者ハ入學志願者名票ニ所定ノ事項ヲ記入シ檢定料ヲ添ヘ本學ニ差出スヘシ

第九條　檢定料ハ金五圓トス
納付シタル檢定料ハ還付セサルモノトス

第十條　入學志願者豫定人員ニ超過スルトキハ選拔試驗ヲ行ヒ其ノ成績優良ナル者ヨリ順次入學セシム

第十一條　入學ヲ許可セラレタル者ハ指定ノ期日マテニ入學料金三圓ヲ納付スヘシ
入學ノ後出席セスシテ入學ノ取消ヲ許可セラレタル者ニハ之ヲ免除ス但シ既納ノモノハ還付セス

第十二條　生徒ハ入學ノ際父兄保護者又ハ學資供給者ノ宿所氏名ヲ届出ツヘシ

第十三條　生徒ハ毎年四月其ノ宿所ヲ届出ツルヲ要ス
修學上不適當ト認ムルトキハ轉宿ヲ命スルコトアルヘシ

第十四條　病氣又ハ已ムヲ得サル事故ニヨリ缺席シタル者ハ三日以内ニ其ノ旨届出ツヘシ
病氣缺席七日以上ニ及フトキハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第十五條　疾病又ハ特別ノ事故ニヨリ二箇月以上修學スルコト能ハサル者ハ願ニヨリ許可ヲ得テ休學スルコトヲ得
疾病ニヨルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第十六條　休學ヲ許可セラレタル者ハ次學年ノ始メヨリ原學年ノ課程ヲ履修スルモノトス

第十七條　兵役ニ服スル者ハ其ノ服役中休學ヲ許可ス
滿期後ハ直ニ原學年ニ復歸スヘシ

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ退學ヲ命ス
一　性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二　學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
三　引續キ一箇年以上缺席シタル者
四　正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者
五　出席常ナラサル者
兵役ニヨリ休學シタル期間ハ前項第三號ノ缺席日數ニ算入セス
第十九條　退學セントスル者ハ其ノ事由ヲ詳記シテ願出テ許可ヲ受クヘシ

第五章　成績考査

第二十條　學期成績ハ當該學期ニ於ケル平素ノ學業試驗及勤惰ノ狀況ニヨリ
テ之ヲ考査ス
第二十一條　學期成績ハ科目評點及學期平均點ヲ以テ之ヲ表示シ各一百ヲ以
テ最高點トス
第二十二條　各科目ニ就キ各學期評點ノ和ヲ三分シタルモノヲ以ヲ學年評點
トシ各學期平均點ノ和ヲ三分シタルモノヲ以テ總平均點トス
第二十三條　學年總平均點六十以上ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ進級
又ハ卒業トス
一　學年評點六十未滿ノ科目ナキ者
二　學年評點六十未滿ノ科目四科目以內アルモ其ノ點數一科目四十以上ニ
シテ他ハ悉ク五十以上ノ者
第二十四條　進級卒業又ハ成績ノ判定ニハ平素ノ行狀ヲモ參酌スルコトアル
ヘシ
第二十五條　試驗ニ缺席シタル者ノ評點ハ當該學年ニ於ケル他學期ノ成績ト
當該學期ニ於ケル平素ノ成績及勤惰トヲ參酌シテ之ヲ定ム
懲戒ヲ受ケタルカ爲メ試驗ニ缺席シタル者ニ對シテハ臨機ノ處置ヲナスヘシ
第二十六條　進級又ハ卒業セサル者ハ次學年ニ於テ原學年ノ各學科目ヲ再ヒ
履修スルモノトス
引續キ二回原級ニ止マル者ハ退學トス

第六章　特待生

第二十七條　學力優等品行方正ナル者ヲ選ヒテ特待生トス

特待生ハ每學年之ヲ定ム

第二十八條　特待生ニハ授業料ヲ免除ス

第二十九條　特待生其ノ資格ヲ損スルトキハ之ヲ廢罷ス

第七章　懲戒

第三十條　規則命令ニ違背シ風紀ヲ紊亂シ其ノ他生徒タル本分ニ背戻スル者ハ之ヲ懲戒ス

第三十一條　懲戒ハ譴責停學除名ノ三種トス

第八章　授業料

第三十二條　授業料ハ一學年金六十五圓トス

左ノ三期ニ分チ下記ノ期間ニ於テ納付スヘシ

第一期　金二十圓　四月二十一日ヨリ同月三十日ニ至ル

第二期　金二十五圓　九月一日ヨリ同月十日ニ至ル

第三期　金二十圓　一月八日ヨリ同月二十日ニ至ル

第三十三條　授業料納付期限後ニ入學シタル者ハ入學許可ノ日ヨリ十日以内ニ之ヲ納付スルモノトス

第三十四條　指定ノ期間ニ授業料ヲ納付セサル者ハ其ノ未納中授業ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

第三十五條　授業料ノ納付ヲ怠リ未納三週間ニ及フ者ハ其ノ學籍ヲ除ク

第三十六條　授業料ハ休學停學ノ場合ト雖モ之ヲ徵收ス但シ兵役ニヨル休學中ノ者ニハ次期以後ノ分納ヲ免除ス

退學ノ場合ニ於テハ其ノ期ノ授業料ハ之ヲ徵收ス

第九章　服制

第三十七條　生徒ハ別ニ定ムル所ニヨリ一定ノ服裝ヲナスヘシ

第十章　奬學貸費

第三十八條　奬學貸費ニ關シテハ別ニ定ムル所ニヨル

日曜日

大祭祝日

北海道帝國大學祝日　二月六日

春期休業　四月一日ヨリ四月七日ニ至ル

夏期休業　七月十一日ヨリ九月十日ニ至ル

冬期休業　十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

第三章　學科課程

第七條　各學年ノ學科目及毎週授業時間數左ノ如シ

學科目＼學年	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
修身	一	一	一	一	一	一	一	一	一
英語	三	三	三	三	三	三	三	二	二
代數	五	五	三						
三角術及解析幾何									
微積分									
物理學	三	三	三						
地質學	三	三							
化學	三								
力學及圖式力學									
器械及發動學									
鐵道									
道路									
石工									
水利工學									
鐵筋混凝土									
衛生工學									
電氣工學									
橋梁									

學科目＼學年	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
修身	一	一	一	一	一	一	一	一	一
英語	三	三	三	三	三	三	三	二	二
代數	五	五	三						
三角術及解析幾何									
微積分									
物理學	三	三	三						
地質學	三	三							
化學	三								
力學及圖式力學									
器械及發動學									
鐵道									
道路									
石工									
水利工學									
鐵筋混凝土									
衛生工學									
電氣工學									
橋梁									

附則

本則ハ大正八年九月十一日ヨリ施行ス

授業料金額ニ關シテハ大正十一年度以後入學ノ生徒ニ對シテ之ヲ適用ス

現ニ在學ノ生徒ハ從前ノ規定ニ依ル但シ二箇年後ハ本則ノ適用ヲ受クルモノトス

○北海道帝國大學附屬土木專門部規則

第一章　目的、定員、修業年限

第一條　土木專門部ハ土木工學ニ關スル高等ノ教育ヲ授クルヲ以テ目的トス

第二條　本專門部生徒ノ定員ハ九十名トス

第三條　本專門部ノ修業年限ハ三ケ年トス

第二章　學年、學期、休業

第四條　學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第五條　學年ヲ左ノ三學期ニ分ツ

第一學期　四月一日ヨリ七月十日ニ至ル

第二學期　七月十一日ヨリ十二月二十四日ニ至ル

第三學期　十二月二十五日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル

第六條　休業日ハ左ノ如シ

日曜日

大祭祝日

北海道帝國大學祝日　二月六日

春期休業　四月一日ヨリ四月七日ニ至ル

夏期休業　七月十一日ヨリ九月十日ニ至ル

冬期休業　十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

第三章　學科課程

第七條　各學年ノ學科目及毎週授業時間數左ノ如シ

學科目＼學年	第一學年			第二學年			第三學年		
	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期	第一學期	第二學期	第三學期
修身	一	一	一	一	一	一	一	一	一
英語	三	三	三	三	三	三	三	二	二
代數	五	三	三	三	三	三	三	二	二
三角術及解析幾何	五	三	三	三	三	三	三	二	二
微積分			五	三	三	三	三	二	二
物理學	三	三	六	五	五	五	四	三	三
地質學	三	二		三	二	二	四	三	三
化學	三	二		四	四	四	四	三	三
力學及圖式力學				三	二	二	三	三	三
器械及發動學									
鐵道									
道路									
石工									
水利工學									
鐵筋混凝土									
衛生工學									
電氣工學									
橋梁									

	造家	建築材料	土木法令經濟	測量術	畫法	製圖設計	測量實習	實驗	兵式體操	計
三七				三	六		三		二	三七
三一			三	三	六				二	三一
三七		三		四	六		六		二	三七
三八		三		三			六		二	三八
三五					九				二	三五
三七					九				二	三七
三七					九			二	二	三七
三八	三		三		九			二	二	三八
三二	三		三		九			二	二	三二

第四章　入學、在學、休學、退學

第八條　入學ハ學年ノ始ニ於テス

第九條　入學資格ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ且體格檢查ニ合格シタル男子トス

一　中學校ヲ卒業シタル者

二　專門學校入學者檢定規程ニ據ル試驗檢定ニ合格シタル者

三　專門學校入學者檢定規程第八條第一號ノ指定ヲ受ケタル者

第十條　入學ヲ志望スル者ハ入學志願者名票ニ所定ノ事項ヲ記入シ檢定料ヲ添ヘ本學ニ差出ス可シ

第十一條　檢定料ハ金五圓トス

納付ノ檢定料ハ還付セサルモノトス

第十二條　入學志願者豫定人員ヲ超過スルトキハ選拔試驗ヲ行ヒ其ノ成績良好ナル者ヨリ順次入學セシム

中學校卒業者ニシテ成績優等ト認ムルモノニ限リ無試驗入學セシムルコトアルヘシ但シ無試驗檢定ハ卒業ノ年及其ノ翌年ニ於テノミ之ヲ行フ

第十三條　選拔試驗ハ中學卒業程度ニヨリ左ノ學科目ニ就キ之ヲ行フ

國語　漢文　英語　數學

前項學科目ノ外理化學動植物學ノ內何レカ一ヲ臨機之ヲ行フ

第十四條　入學ヲ許可セラレタル者ハ指定ノ期日マテニ入學料金三圓ヲ納付スヘシ

入學ノ後出席セスシテ入學取消ヲ許可セラレタル者ニハ之ヲ免除ス但シ既納ノモノハ還付セス

第十五條　生徒ハ入學ノ際札幌市在住ノ保證人連署ノ在學證書ニ戸籍抄本ヲ添ヘ差出スヘシ

正當ノ事由ナクシテ四月末日マテニ前項ノ手續ヲ爲ササル者ハ入學ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

在學證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ旨屆出ツヘシ

第十六條　生徒ノ宿所不適當ナリト認ムルトキハ之ヲ變更セシムルコトアルヘシ

第十七條　病氣又ハ已ムヲ得サル事故ニヨリ缺席シタル者ハ三日以內ニ其ノ旨屆出ツヘシ

病氣缺席七日以上ニ及フトキハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第十八條　疾病又ハ特別ノ事故ニヨリ二箇月以上修學スルコト能ハサル者ハ保證人連署願出テ一箇年間ノ休學ヲ爲スコトヲ得

疾病ニヨルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第十九條　休學ヲ許可セラレタル者ハ滿期後原學年ニ入リ修學スルモノトス

休學期限內ト雖モ其ノ事故止ミタルトキハ許可ヲ得テ修學スルコトヲ得

第二十條　兵役ニ服スル者ハ其ノ服役中休學ヲ許可ス

滿期後ハ直ニ原學年ニ復歸スヘシ

第二十一條　生徒ハ許可ヲ受クルニアラサレハ他ノ學校ニ入リ又ハ他學校若クハ官署ニ於ケル各種ノ試驗ニ應スルコトヲ得ス

許可ヲ受ケントスル者ハ其ノ事由ヲ具シ保證人連署ノ上其ノ旨願出ツヘシ

第二十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ退學ヲ命ス

一　性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二　學業劣等若クハ身體虛弱ニヨリ成業ノ見込ナシト認メタル者

三　一箇月以上無屆缺席シタル者

四　出席甚タ不規律ナル者

第二十三條　退學セントスル者ハ其事由ヲ詳記シ保證人連署願出テ許可ヲ受

クヘシ

第五章　試驗、卒業、稱號

第二十四條　學業試驗ハ每學期ノ終リニ於テ之ヲ行フ但シ教官ノ見込ニヨリ臨時試驗ヲ行フコトアルヘシ

第二十五條　一學年ノ課程ヲ修了シタル者ニアラサレハ次學年ノ課程ヲ履修スルコトヲ得ス

第二十六條　一學年ノ課程ノ修了ハ學年ノ終リニ於テ各學科目ノ成績ヲ考査シテ之ヲ判定ス

第二十七條　各學科目ノ學期評點ハ學期試驗點數ト平素ノ成績及臨時試驗評點ヲ定ム

臨時試驗ヲ施行シタル場合ニハ學期試驗點數ト平素ノ成績ヲ考査シテ之數トヲ考査シテ之ヲ定ム

第二十八條　每學年ノ各學科目ノ評點ハ各學期ノ評點平均ニヨリ之ヲ定ム

第二十九條　試驗ノ成績評點ハ各學科目一百ヲ以テ最高點トス

第三十條　各學科目ノ學期試驗成績評點ニシテ四十點ニ滿タサルトキハ其ノ學期ニ於ケル當該學科ノ授業時間數ノ九割以上出席シタル者ニ限リ特ニ四十點ヲ與フルコトアルヘシ

第三十一條　課程ノ修了ハ左ノ條項ニ該當スル者ニ就キ平素ノ行狀及勤惰ヲ參酌シテ之ヲ定ム

一　各學科目ノ學年評點平均六十以上ヲ得タル者

一　各學科目學年評點各五十以上ヲ得タル者

第三十二條　試驗ニ缺席シタルトキハ其ノ學科目ニ零點ヲ付ス

疾病又ハ特別ノ事故ニヨリ缺席シタル者ニ限リ追試驗ヲ受ケシムルコトアルヘシ

第三十三條　追試驗評點ハ其ノ得點ヨリ十分ノ二ヲ減ス此ノ場合ニ於テハ第三十條ヲ適用セス

第三十四條　課程ヲ修了セサル者ハ原級ニ止マリ次學年ニ於テ原學年ノ各學科目ヲ再ヒ履修スルモノトス

第三十五條　引續キ二回原級ニ止マル者ハ退學トス但シ休學シタル場合ハ此

ノ限ニ在ラス

第三十六條　第三學年ノ課程ヲ修了シタル者ハ卒業トス

卒業ノ席次ハ各學年ノ平均點數ヲ以テ之ヲ定ム

第三十七條　卒業シタル者ハ工學得業士ト稱スルコトヲ得

第六章　特待生

第三十八條　學力優等品行方正ナル者ヲ選ヒテ特待生トナス

特待生ハ每學年之ヲ定ム

第三十九條　特待生ニハ授業料ヲ免除ス

第四十條　特待生其ノ資格ヲ損スルトキハ之ヲ廢罷ス

第七章　懲戒

第四十一條　規則命令ニ違背シ風紀ヲ紊亂シ其ノ他生徒タル本分ニ背戻スル者ハ之ヲ懲戒ス

懲戒ハ譴責停學除名ノ三種トス

第八章　授業料

第四十二條　授業料ハ一學年金六十五圓トス

左ノ三期ニ分チ下記ノ期間ニ於テ納付スヘシ

第一期　金二十圓　四月八日ヨリ同月二十日ニ至ル

第二期　金二十五圓　九月十一日ヨリ同月二十日ニ至ル

第三期　金二十圓　一月八日ヨリ同月二十日ニ至ル

第四十三條　授業料納付期限後ニ入學シタル者ハ入學許可ノ日ヨリ十日以內ニ之ヲ納付スルモノトス

第四十四條　規定ノ期間ニ納付セサル者ハ其ノ未納中授業ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

第四十五條　授業料ノ納付ヲ怠リ未納三週間ニ及フ者ハ其ノ學籍ヲ除ク

第四十六條　授業料ハ休學停學ノ場合ト雖モ之ヲ徵收ス但シ兵役ニヨル休學中ノ者ニハ次期以後ノ分納ヲ免除ス

退學ノ場合ニ於テハ其ノ期ノ授業料ハ之ヲ徵收ス

第九章　服制

第四十七條　生徒ハ別ニ定ムル所ニヨリ一定ノ服裝ヲナスヘシ

第十章　奬學貸費

第四十八條　奬學貸費ニ關シテハ別ニ定ムル所ニヨル

附則

本則ハ大正八年九月十一日ヨリ施行ス

本則施行以前ヨリ在學スル生徒ノ授業料金額ハ二箇年間從前ノ規定ニヨル

授業料金額ニ關シテハ大正十一年度以後入學ノ生徒ニ對シテ之ヲ適用ス

現ニ在學ノ生徒ハ從前ノ規定ニ依ル但シ二箇年後ハ本則ノ適用ヲ受クルモノトス

○北海道帝國大學附屬水產專門部規則

第一章　目的、學科、定員、修業年限

第一條　水產專門部ハ水產ニ關スル高等教育ヲ授クルヲ以テ目的トス

第二條　本專門部ニ漁撈科養殖科及製造科ヲ置ク

第三條　本專門部生徒ノ定員ハ各科六十名トス

第四條　各科ノ修業年限ヲ三箇年トス

第二章　學年、學期、休業

第五條　學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第六條　學年ヲ左ノ三學期ニ分ツ

第一學期　四月一日ヨリ七月十日ニ至ル

第二學期　七月十一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期　一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第七條　休業日ハ左ノ如シ

日曜日

大祭祝日

北海道帝國大學祝日　二月六日

春期休業　四月一日ヨリ四月七日ニ至ル

夏期休業　七月十一日ヨリ九月十日ニ至ル

冬期休業　十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

實驗實習ハ休業日ト雖モ之ヲ課スルコトアルヘシ

第三章　學科課程

第八條　各學年ノ學科課程左ノ如シ

漁撈科

學科目	第一學年 第一學期	第一學年 第二學期	第一學年 第三學期	第二學年 第一學期	第二學年 第二學期	第二學年 第三學期	第三學年 第一學期	第三學年 第二學期	第三學年 第三學期	修身
	毎時	毎時	毎時	毎時	毎時	毎時	毎時	毎時	毎時	
	不定	不定	不定	不定	不定	不定	一	一	一	

英語	三	三	三	三	三	三	三	三	三	
水產通論	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
數學	三	三	三	三	三	三	三	三	三	
水產動物學	三	三	三	三	三	三	三	三	三	
水產植物學	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
浮游生物學										
化學	三	三	三	二	二	二	二	二	二	
分析化學	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
物理學	三	三	三	三	三	三	三	三	三	
機械學										
氣象學										
海洋學	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
航海術	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
運用術										

漁船論				二	二	二	二	二	二
漁撈論	一	一	一	五	五	五	六	六	六
水產養殖論				一	一	一			
水產保護論							二	二	二
水產製造論				一	一	一			
經濟學				二	二	二			
水產經營法及簿記							三	三	三
水產法規							三	三	三
航海衞生及救急療法					二	二			
兵式體操	二	二	二	二	二	二	二	二	二
特別講義							不定	不定	不定
計	二六	二六	二六	二六	二八	二八	二四	二四	二四
水產動物學實驗	一囘	一囘	一囘						
水產植物學實驗	一	一	一						
浮游生物學實驗				一	一	一			
化學實驗	一	一	一						
氣象及海洋學實驗	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定
漁具製作實習	一	一	一	二	一	一	三	三	三
漁法演習				不定	不定	不定	不定	不定	不定
航海運用實習				一	一	一			
漁船製圖							二	二	二
漁撈航海運用練習	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定	不定
計	四	四	四	四	三	三	五	五	五

養殖科

修身	不定時	不定時	不定時	不定時	不定時	不定時	一時	一時	一時
英語	三	三	三	三	三	三	三	三	三
水產通論	一	一	一						

數學	三	三	三						
水產動物學	三	三	三	二	二	二			
水產植物學	二	二	二	二	二	二			
動物發生學							二	二	二
浮游生物學				二	二	二			
應用菌學				二	二	二			
化學	三	三	三	三	三	三			
分析化學	一	一	一						
物理學	三	三	三						
氣象學				一	一	一			
海洋學	二	二	二						
湖沼學				一	一	一			
動物生理學				二	二	二			
漁撈論				一	一	一			

水產養殖論	三	三	三	二	二	二	二	二	二
水產保護論							二	二	二
水產製造論				一	一	一			
經濟學				二	二	二			
水產經營法及簿記							三	三	三
水產法規							三	三	三
兵式體操	二	二	二	二	二	二	二	二	二
特別講義							不定	不定	不定
計	二六	二六	二六	二六	二六	二六	一八	一八	一八
水產動物學及發生學實驗	一回	一回	一回	一回	一回	一回	三回	三回	三回
水產植物學實驗	一	一	一	一	一	一			
浮游生物學實驗				一	一	一			
菌學實驗				一	一	一			
化學實驗	二	二	二						

氣象學及海洋學實驗	不定	不定	不定	不定	不定	不定			
養殖實習				不定	不定	不定	不定	不定	不定
計	四	四	四	四	四	四	二	二	二

製造科

修身	不定時	不定時	不定時	不定時	不定時	不定時	一時	一時	一時
英語	三	三	三	三	三	三	三	三	三
水產通論	一	一	一						
數學	三	三	三						
水產動物學	三	三	三						
水產植物學	二	二	二						
應用菌學				二	二	二			
化學	三	三	三	三	三	三			
分析化學	一	一	一	一	一	一	一	一	
物理學	三	三	三						
機械學				三	三	三			
氣象學				一	一	一			
海洋學	二	二	二						
漁撈論				一	一	一			
水產養殖論				一	一	一			
水產製造論	三	三	三	五	五	五	六	六	二
食品化學							二	二	二
經濟學				二	二	二			
水產經營法及簿記							三	三	三
水產法規							三	三	三
兵式體操	二	二	二	二	二	二	二	二	二
特別講義							不定	不定	不定
計	二六	二六	二六	二四	二四	二四	二一	二一	一六

水產動物學實驗	一	四	一	四							
水產植物學實驗	一	四	一	四							
菌學實驗											
化學實驗（定性分析）	二	四	二	四							
化學實驗（定量分析）											
水產製造實習			不定	四	不定	四	不定	四	不定	五	不定
機械製圖					三	四	三	四	三	五	三
計	四	四	四	四	四	四	四	四	四	五	四

第四章　入學、在學、休學、退學

第九條　入學ハ學年ノ始メニ於テス

第十條　入學志願者ハ三科ノ中一科ヲ選ヒ出願スヘシ

入學ノ後ハ轉科スルヲ許サス

第十一條　入學資格ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ且體格檢查ニ合格シタル者トス

一　中學校ヲ卒業シタル者

二　專門學校入學者檢定規程ニヨリ試驗檢定ニ合格シタル者

三　文部省專門學校入學者檢定規程第八條第一號ニ該當スル者

第十二條　入學ヲ志望スル者ハ入學志願者名票ニ所定ノ事項ヲ記入シ檢定料ヲ添ヘ本學ニ差出スヘシ

第十三條　檢定料ハ金五圓トス

納付シタル檢定料ハ還付セサルモノトス

第十四條　入學志願者豫定人員ヲ超過スルトキハ選拔試驗ヲ行ヒ其ノ成績優良ナル者ヨリ順次入學セシム

第十五條　選拔試驗ハ中學卒業ノ程度ニヨリ左ノ學科目ニ就キ之ヲ行フ但シ時宜ニヨリ變更スルコトアルヘシ

國語　漢文　英語　數學　物理　化學　博物

第十六條　入學ヲ許可セラレタル者ハ指定ノ期日マテニ入學料金三圓ヲ納付スヘシ

入學ノ後出席セスシテ入學ノ取消ヲ許可セラレタル者ニハ之ヲ免除ス但シ

既納ノモノハ還付セス

第十七條　生徒ハ入學ノ際札幌市在住ノ保證人連署ノ在學證書ニ戸籍抄本ヲ添ヘ差出スヘシ

正當ノ事由ナクシテ四月末日マテ前項ノ手續ヲ爲ササル者ハ入學ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

在學證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタル時ハ其ノ旨届出ツヘシ

第十八條　生徒ノ宿所不適當ナリト認ムルトキハ變更セシムルコトアルヘシ

第十九條　病氣又ハ已ムヲ得サル事故ニヨリ缺席シタル者ハ保證人連署ノ上三日以内ニ其ノ旨届出ツヘシ

病氣缺席七日以上ニ及フトキハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第二十條　疾病又ハ特別ノ事故ニヨリ二箇月以上修學スルコト能ハサル者ハ保證人連署願出ニヨリ許可ヲ得テ其ノ學年間休學スルコトヲ得

疾病ニヨルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ

第二十一條　休學ヲ許可セラレタル者ハ次學年ノ始ヨリ原學年ノ課程ヲ履修スルモノトス

休學期間内ト雖モ其ノ事故止ミタルトキハ許可ヲ得テ修學スルコトヲ得

第二十二條　兵役ニ服スル者ハ服役中休學ヲ許可ス

滿期後ハ直ニ原學年ニ復歸スヘシ

第二十三條　成業ノ見込ナシト認メタル者ハ退學セシムルコトアルヘシ

第二十四條　退學セントスル者ハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人連署願出テ許可ヲ受クヘシ

第五章　成績考査、卒業、稱號

第二十五條　學期成績ハ其ノ學期ニ於ケル平素ノ學業試驗實驗實習成績及勤怠ノ狀況ニヨリテ之ヲ考査ス

第二十六條　學期成績ハ各科目評點(學期評點)及其ノ平均點ヲ以テ之ヲ表示シ各一百ヲ以テ最高點トス

第二十七條　學年成績ハ各科目各學期評點ノ平均點(學年評點)ト其ノ平均點ヲ以テ之ヲ表示ス

第二十八條　各科目ノ學年評點五十以上其ノ平均點六十以上ヲ得タルモノヲ

及第トス

第二十九條　試驗ニ缺席シタルトキハ其ノ學科目ニ零點ヲ附ス
疾病又ハ特別ノ事故ニヨリ缺席シタル者ニ限リ追試驗ヲ受ケシムルコトアルヘシ

第三十條　同學年ニ於テ二回落第シタル者ハ退學トス

第三十一條　卒業ハ在學中ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ム

第三十二條　卒業シタル者ハ水產學得業士ト稱スルコトヲ得

第六章　特待生

第三十三條　學力優等品行方正ナル者ヲ選ヒテ特待生トス

特待生ハ每學年之ヲ定ム

第三十四條　特待生ニハ授業料ヲ免除ス

第三十五條　特待生其ノ資格ヲ損スルトキハ之ヲ廢罷ス

第七章　懲戒

第三十六條　規則命令ニ違背シ風紀ヲ紊亂シ其ノ他生徒タル本分ニ背戻スル者ハ之ヲ懲戒ス

第三十七條　懲戒ハ譴責停學除名ノ三種トス

第八章　授業料

第三十八條　授業料ハ一學年金六十五圓トス
左ノ三期ニ分チ下記ノ期間ニ於テ納付スヘシ
第一期　金二十圓　四月八日ヨリ同月二十五日ニ至ル
第二期　金二十五圓　九月十一日ヨリ同月二十日ニ至ル
第三期　金二十圓　一月八日ヨリ同月二十日ニ至ル

第三十九條　授業料納付期間後ニ入學シタル者ハ入學許可ノ日ヨリ十日以內ニ之ヲ納付スルモノトス

第四十條　授業料ノ納付ヲ怠リ未納三週間ニ及フ者ハ其ノ學籍ヲ除ク

第四十一條　授業料ハ休學停學ノ場合ト雖モ之ヲ徵收ス但シ兵役ニヨル休學中ノ者ニハ次期以後ノ分納ヲ免除ス

退學ノ場合ニ於テハ其ノ期ノ授業料ハ之ヲ徴收ス

第九章　服制

第四十二條　生徒ハ別ニ定ムル所ニヨリ一定ノ服裝ヲナスヘシ

第十章　奬學貸費

第四十三條　奬學貸費ニ關シテハ別ニ定ムル所ニヨル

第十一章　研究生

第四十四條　卒業生ニシテ更ニ研究セント欲スル者ニハ研究生トシテ在學ヲ許可スルコトアルヘシ

第四十五條　研究生ノ在學期間ハ二箇年以内トス

第四十六條　研究生ハ教官ノ指導ヲ受ケ研究ニ從事スルモノトス

第四十七條　研究生ハ在學期ノ終リニ於テ研究報告ヲ提出スヘシ

其ノ成績優良ナル者ニハ證明書ヲ付與スルコトアルヘシ

第四十八條　研究生ニハ特ニ規定シタルモノノ外本規則ヲ準用ス

附則

本則ハ大正八年九月十一日ヨリ施行ス

本則施行ノ際現ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ授業時數ニ關シテハ本則ヲ參酌シ總長別ニ之ヲ定ム

本則施行以前ヨリ在學スル生徒ノ授業料金額ハ二箇年間從前ノ規定ニヨル

授業料金額ニ關シテハ大正十一年度以後入學ノ生徒ニ對シテ之ヲ適用ス

現ニ在學ノ生徒ハ從前ノ規定ニ依ル但シ二箇年後ハ本則ノ適用ヲ受クルモノトス

○學生生徒服制

（明治四十年九月制定
大正十四年十月十三日改正）

	上衣		袴			帽	
	地質	製式	地質	製式		地質	製式
大學學生	黒羅紗但シ夏ハセル又ハ小倉	立襟一行背廣ニシテ徑六分ノ金紐釦五箇但シ前部ニ附スルチ交叉セル櫻花上ニ大ノ字ヲ現ス	上衣ト同シ	同上		黒羅紗	菱形ニシテ黒色ノ前庇ヲ附シ帽ノ兩側ニ徑五分ノ金紐釦ヲ附スル但シ交叉セル櫻花上ニ大ノ字ヲ現ハス
豫科生徒	同上	同上徑六分ノ櫻花形金紐釦ニシテ前部ニ五箇ヲ附ス	同上	同上		同上	圓形ニシテ周圍ニ白テープ巾凡二分）三條ヲ附ス他ハ同上
農學實科生徒	同上	同上	同上	同上		同上	圓形ニシテ周圍ニ黒色巾一寸二分ノ帶ヲ附ス他ハ同上
林學實科生徒	同上	同上	同上	同上		同上	同上
土木專門部生徒	同上	同上	同上	同上		同上	圓形ニシテ周圍ニ一寸二分ノ黒リボンヲ纏フ他ハ同上
水產專門部生徒	同上	同上	同上	同上		同上	同上

	帽ノ徽章	襟ノ徽章	外套		雨覆	
			地質	製式	地質	
大學學生	前章ハ縦八分横六分ノ金具製ニシテ大學ノ文字ヲ現ス	左襟ニハ農學部ハ金具製四分五厘ノA字ヲ醫學部ハ同上M字ヲ工學部ハ同上T字ヲ右襟ニハ同徑ノ星ノ章ヲ附ス	羅紗	折襟陰釦	羅紗	
豫科生徒	前章ハ全徑一寸二分ノ金具製ニシテ星ノ章ヲ附ス	左襟ニハ金具製四分五厘ノP字ヲ附ス	同上	同上	同上	
農學實科生徒	前章ハ縦九分横七分ノ金具ニシテ中央上部ニ銀色星章ヲ附ス	左襟ニハ同上製農ノ字ヲ附ス	同上	同上	同上	
林學實科生徒	前章ハ縦九分横七分ノ白色七寶ヲ以テ篆書ヲ以テ大ノ文字ヲ表ハシ中央ニ縦五分五厘ノ金色横五分ノ林字ヲ附ス	左襟ニ同上製Fノ字ヲ附ス	同上	同上	同上	
土木專門部生徒	前章ハ縦一寸横八分ノ金具製篆書ヲ以テ工學ノ文字ヲ中ニ銀星ヲ附ス	左襟ニ同上製Cノ字ヲ附ス	同上	同上	同上	
水產專門部生徒	前章ハ全徑一寸二分ノモールド製枝葉ノ中ニ水ノ字ヲ附ス	左襟ニ同上製水ノ字ヲ附ス	同上	同上	同上	

但シ兵式體操ノ時ハ必ズゲートル着用ノ事又選科生ハ此服制ニ準スルモノトス

○北海道帝國大學附屬圖書館規程

（大正七年十一月制定）
改正（大正十一年十一月）

第一條　本學ニ圖書館ヲ置キ北海道帝國大學ニ於ケル圖書ヲ貯藏ス

第二條　共用ニ供スル圖書ハ册數及期限ヲ設ケス教室主任及部課長之ヲ借受スルモノトス

第三條　參考用トシテ借受スルコトヲ得ヘキ册數ハ左ノ如シ但シ增加借受ノ必要アル場合ハ特ニ總長ノ許可ヲ得タル者ニ限リ制限外ニ借受スルコトヲ得

一　教授助教授講師雇教員　十　册
一　書記雇員　二　册

第四條　學生生徒ハ已ムヲ得サル場合ニ限リ館長ノ認可ヲ得テ二册ヲ限リ借受ノ册數ハ洋裝ノモノニ就キテ之ヲ定メ和漢裝ノモノハ五册ヲ以テ一册ニ充テ裝釘セサル逐次刊行ノ書ハ一完册ヲナスマテノ若干號ヲ合シテ一册ト看做ス

第五條　教科書若クハ參考書ニシテ受持教官ノ指定ニ係ルモノハ學生生徒ノ願ニヨリ貸付スルコトアルヘシ

第六條　圖書ヲ借受ケントスル者ハ定式ノ證書用紙ニ番號著者名姓名等ヲ詳載シ捺印ノ上館長ニ差出スヘシ

第七條　貸付シタル圖書ハ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス但シ共用ノ爲メ借受ケタルモノハ教室内ニ限リ轉貸スルコトヲ得

第八條　貸付シタル圖書ハ一ケ月以内ニ返納スヘシ若シ引續借受ノ必要アル者ハ更ニ借受ノ手續ヲ爲スヘシ但シ他ニ前願者アルトキハ貸付セサルコトアルヘシ

退職轉任又ハ退學休學卒業シタル者ハ貸付期限内ニ拘ラス其ノ當日必ス返納スヘシ

第九條　借受ノ圖書ハ檢查ノタメ貸付期限内ト雖毎年六月三十日迄ニ悉ク返納スヘシ共用借受ノ圖書ニ限リ本館吏員出張ノ上點檢スルモノトス

第十條　職員學生生徒及借受ノ特許ヲ得タル者夏期休業中圖書ヲ借受ケント

乞フ者ニハ二册ヲ限リ貸付スルコトアルヘシ

第十一條　閱覽室ハ日曜日大祭祝日ヲ除ク外左ノ時間之ヲ開ク

自九月十一日　至十二月二十七日　午前八時ヨリ午後九時マテ

自一月六日　至七月十日　午前八時ヨリ午後九時マテ

自七月十一日　至九月十日　午前八時ヨリ正午十二時マテ

第十二條　學生生徒閱覽室ニ入場ノ節ハ必ス閱覽票ヲ掛員ニ渡シ退場ノ節之ヲ受クヘシ但シ閱覽票ハ毎年館長ヨリ學生生徒ニ交付ス

第十三條　圖書ヲ借覽セントスルトキハ目錄ニ就キ其ノ圖書ヲ檢出シ規定ノ用紙ニ書名番號姓名等ヲ詳記シ掛員ニ差出シ之ヲ借受シ閱覽了レハ直ニ返納スヘシ

第十四條　圖書ハ閱覽室内ニ於テ閱覽スヘシ閱覽室備付ノ參考書及定期刊行物ハ定メタル別席ニテ閱覽スヘシ

第十五條　閱覽室ニ在リテ喫煙音讀談論雜話等ヲナスコトヲ得ス

第十六條　圖書筆墨ノ類ヲ除ク外物品ヲ閱覽室内ニ携帶スルコトヲ得ス

第十七條　左ニ揭クル者ニハ特許閱覽票ヲ交付シ圖書ノ借覽ヲ許スコトヲ得

一　舊職員　一　卒業生　一　諸官廳ノ吏員公務ニヨリ其ノ官廳ヨリ照會アル者

一　特別ノ事情アル者

第十八條　閱覽票ハ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス

第十九條　閱覽票ヲ遺失シタルトキハ其ノ旨ヲ館長ニ届出テ更ニ交付ヲ請フヘシ

第二十條　左ニ揭クル者ハ書庫内ニ入リ圖書ヲ檢索スルコトヲ得

一　教授助教授講師

一　大學本科三年級學生

第二十一條　前條ニ揭ケサル職員ニシテ書庫内ニ入リ圖書ノ檢索ヲナスコトヲ要スルトキハ其ノ都度館長ノ許可ヲ經ヘシ

第二十二條　書庫内ニ入リ圖書ヲ檢索シ得タル上ハ直ニ庫外ニ出テ第十三條ノ手續ヲ經テ閱覽スヘシ

第二十三條　圖書ヲ檢索スル者ハ圖書ノ位置ヲ錯亂スルコトヲ得ス

第二十四條　五人以上同時ニ書庫内ニ入リテ圖書ノ檢索ヲナスコトヲ得ス

第二十五條　共用ノタメ借受タル圖書ヲ毀損汚染若クハ紛失シタルトキハ借受者ヨリ書面ヲ以テ館長ニ開申スヘシ

第二十六條　借受シタル圖書ヲ紛失シタル者ハ同一ノ圖書ヲ以テ償ハシム

第二十七條　借受シタル圖書ヲ毀損又ハ汚染シタル者ハ損害ノ多少ニ準シ同一ノ圖書ヲ以テ償ハシメ若クハ之ヲ修繕セシム

第二十八條　圖書返納ノ督促ヲ受ケ三ケ月ヲ過クルモ尚返納セサル者ハ紛失シタルモノト見做シ前條ニ準シ處分ス

第二十九條　圖書借用ノ期限ヲ過キ督促ヲ受クルモ尚之ヲ返納セサル者ハ其ノ義務ヲ終ルマテ他ノ圖書ヲ本人ニ貸付スルコトヲ停止ス

第三十條　本規程ニ違背シタル者ハ七月以上一ケ年以下圖書ノ貸付及閲覽ヲ停止スルコトアルヘシ

（明治四十四年八月制定）

改正（大正七年五月及七月）

第一條　植物園ハ内外諸國所産ノ植物ヲ栽植シ博物館ハ北海道産ノ天産物及人類學ニ關スル標本ヲ主トシ博物學ニ關スル内外諸國ノ標本ヲ蒐集陳列シ本學職員及學生生徒ノ研究ニ資シ併セテ公衆ノ縱覽ニ供スル所トス

第二條　植物園及博物館ハ左ノ日時ニ於テ公衆ノ縱覽ヲ許ス但シ臨時ノ開閉ハ門外掲示場ニ公示スヘシ

期限	縱覽日	時限
自四月同三十一日至	日曜水曜土曜及大祭日	自午前八時半至午後五時
自五月一日至九月十五日	毎日	自午前八時半至午後五時
自九月十六日至十月三十一日	毎日	自午前八時至午後四時
自十一月一日至同三十日	日曜水曜土曜及大祭日	自午前八時至午後四時

第三條　縱覽人ハ縱覽券賣下所ニ於テ縱覽券ヲ買取リ門衞ニ示シ穿孔ヲ受ケ退出ノ際門衞ニ渡スヘシ但シ出門ノ際縱覽券ヲ有セサル者ニ對シテハ縱覽料ヲ徵收ス

第四條　縱覽券ハ一枚金五錢トシ六歲以上十二歲未滿ノ者ハ金二錢トシ二十五回回數縱覽券一册金一圓トス但シ六歲ニ滿タサル者ハ縱覽料ヲ徵セス

第五條　本學職員及學生生徒ハ縱覽券ヲ要セス但シ學生生徒ハ制服制帽ヲ着用スルヲ要ス

第六條　左ニ揭クル者ハ本學ノ承認ヲ得テ無料縱覽スルコトヲ得

一　各種學校學生生徒ニシテ學術研究ノタメ指導教官ノ引率セル者

二　隊伍ヲ編成シ指揮官ノ引率スル陸海軍隊

第七條　縱覽券ヲ携フル者ト雖左ノ事項ニ該當スルモノハ縱覽ヲ禁ス

一　癲狂者又ハ泥醉者

二　足駄若クハ薄齒下駄ヲ穿ツ者

三　畜類ヲ牽ク者

四　包物採集鑵籠鞄又ハ花卉果實種子等ヲ携帶スル者

五　陳列品ニ手ヲ觸レ栽培及自生ノ花卉樹木ヲ毀害スル者

六　飲酒放歌吟誦其ノ他喧噪ノ所爲アル者

七　建築物内ニ於テ喫煙スル者

八　十歲未滿ノ小兒ニシテ相當ノ保護者ノ伴ハサル者

九　本規程若クハ揭示事項ニ違背シ又ハ係員ノ指示ニ從ハサル者

第八條　園内ノ樹木花卉其ノ他ノ物品並ニ館内陳列品陳列函窓硝子等ヲ毀損シタルトキハ現品若クハ相當代價ヲ償ハシム

第九條　許可ナクシテ構内ニ於テ撮影シ又ハ模寫スルコトヲ禁ス

第十條　園内ノ樹木ニ攀チ又ハ鳥獸魚類ヲ漁獵スルコトヲ禁ス

第十一條　縱覽者ニ必要アル事項ハ隨時園内若クハ館内ニ之ヲ揭示ス

○家畜病院規程

（明治四十五年六月制定）

第一條　本院ハ學術實驗ニ資センカタメ本學及民間ノ病畜ヲ治療ス

第二條　外來患畜ノ診察ハ休日ヲ除キ毎日午前九時ヨリ午後三時迄トス

第三條　患畜ノ治療ヲ受ケントスル者ハ本院ニ申出テ同時ニ患畜ヲ牽來ルヘシ

第四條　患畜ノ入院ヲ望ム者ハ入院願書ヲ差出シ承認ヲ受クヘシ

第五條　本院ニ於テ患畜ノ入院ヲ承認シタルトキハ入院證ヲ交附ス

第六條　患畜入院中避クヘカラサル災害若クハ施術中死傷等アルモ本院ハ其辨償ノ責ニ任セス

第七條　畜主ニ於テ患畜退院ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ家畜ヲ引取リ入院證ヲ返付スヘシ

第八條　畜主ニ於テ患畜斃死ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ其ノ屍體ヲ引取ルヘシ若シ二十四時間以内ニ引取ラサルトキハ本院ニ於テ處分ス

第九條　入院料施術料藥價皮下注射料灌腸料及處分料ハ別ニ之ヲ定ム

第十條　學術上特ニ必要ノ患畜ニ限リ治療費ノ幾分若クハ全部ヲ免除ス

第十一條　本院ハ往診ノ依頼ニ應ス但シ往診ニ要スル實費ハ畜主之レヲ負擔スヘシ

第十二條　入院料ハ一週間毎ニ又半途退院ノ場合ニハ其ノ際之ヲ納付スヘシ

第十三條　裝蹄ハ休日ヲ除キ毎日午後一時半ヨリ同三時迄施行スルモノトス

（書式）

入院願書

患畜	種類
名稱	年齡

右今般入院治療相願候ニ付テハ御規則並ニ御命令等遵守可致此段御願候也

年　月　日

住所

畜主　氏　名印

北海道帝國大學農學部家畜病院御中

（書式）

第何號

入院證

畜主氏名

一患畜

一此證券ハ患畜入院ノ證トシテ交付ス退院ノ節ハ之ヲ返付シテ家畜ヲ引取ルヘシ

年月日

北海道帝國大學農學部家畜病院印

○醫學部附屬醫院規則

第一條　本院ハ醫學上ノ研究及學術教授ノ目的ヲ以テ患者ノ診療ヲ爲ス所トス

第二條　患者ヲ分チテ外來及入院ノ二種トス

第三條　患者ノ治療ハ官費ヲ主トシ傍ラ私費ノ治療ハ其病症ニ依リ之ヲ許可ス

第四條　私費患者ニハ本院所定ノ料金ヲ納付セシム

第五條　本規則ノ施行細則ハ本學總長之ヲ定ム

○醫學部附屬醫院規則施行細則

第一條　患者ニシテ其病症學術研究上須要ト認ムルモノハ官費患者トシテ治療ス但シ患者ノ希望又ハ本院ノ都合ニ依リ費用ノ一部分ヲ徴收スルコトア

ルヘシ

第二條　官費患者ハ本人ノ願出ニヨリ當該科教授之ヲ許可ス

第三條　外來患者ニハ診察券ヲ交付ス診療請藥ノ際掛員ニ之ヲ提出スヘシ

第四條　入院ハ當該科教授之ヲ許可シ同時ニ入院證ヲ差出サシム但シ官費患者ハ剖檢承諾書ヲ添付スヘシ

第五條　入院患者ハ醫員ノ許可ヲ得スシテ猥リニ退院スルヲ許サス

第六條　官費入院患者死亡シタルトキハ剖檢ニ付スルモノトス但シ祭粢料トシテ患者ノ遺族若クハ身元保證人ニ別ニ定ムル所ノ金額ヲ交附ス

第七條　死體剖檢後ハ遺族若クハ身元保證人ニ於テ遺骸ヲ引取ルヘシ但シ情願ニ依リ官費ヲ以テ葬祭ヲ行フコトアルヘシ

第八條　私費患者ニ對シテハ本院所定ノ藥價入院料其ノ他所要ノ料金ヲ徵收スス

第九條　官費入院患者許可ヲ得スシテ退院シタルトキハ入員當時ニ遡リ本院所定ノ入院料其ノ他ノ料金ヲ徵收ス

第十條　本院ニ於テ診療セサル病症ハ其都度醫院長之ヲ定ム

○醫學講習科規程

第一條　本講習科ハ醫師ニ醫學上ノ新智識ヲ普及スルヲ以テ目的トス

第二條　講習期間ハ五週間以內トシ每年一回之ヲ開ク但シ其時期ハ其都度之ヲ定ム

第三條　講習科目及講師氏名ハ豫メ之ヲ公告ス

第四條　講習志願者ハ醫師及獸醫ノ資格ヲ有スル者ニ限ル

第五條　講習者ノ人員ハ各學科十名以上五十名以下トス但設備上ノ都合ニ依リテハ其ノ人員ヲ增減スルコトアルヘシ

第六條　講習者ニハ講習料金十圓ヲ前納セシム但シ開講セサル場合ノ外既納ノ講習料ハ還付セス

第七條　講習科修了者ニハ證明書ヲ附與ス

○看護法講習科規則

第一條　看護法講習科ハ患者看護ノ方法ヲ教授シ看護婦ヲ養成スルヲ目的トス

第二條　講習期間ヲ二箇年トシ之ヲ二學年ニ分チ學科及實習ヲ課ス

第三條　前學年ハ更ニ之ヲ左ノ三期ニ分チ看護ニ必要ナル左記學科ヲ授ケ兼テ實務ヲ練習セシム

第一期

一　修身大意
一　看護婦ニ必要ナル心得
一　解剖學大意
一　生理學大意
一　衞生學大意

第二期

一　修身大意

一　傳染病大意
一　繃帶學
一　醫科器械學
一　一般消毒法
一　外科的消毒法
一　麻醉法
一　病室裝置法
一　患者運搬法
一　藥餌用法
一　食餌用法
一　救急療法
一　醫科小技術（灌腸法、皮下注射法、吸入法、貼用法、寒溫罨法、洗拭及浴法、水蛭及吸角發泡、芥子泥等、體溫、脈及呼吸計法）
一　內科病患者看護法
一　傳染性諸病患者看護法
一　實習

第三期

一　修身大意
一　外科病患者看護法
一　整形外科病患者看護法
一　精神病患者看護法
一　産科婦人科病患者及姙婦産婦看護法
一　小兒科病患者看護法及育兒法
一　皮膚病科黴毒科病患者看護法
一　眼科病患者看護法
一　耳鼻咽喉科病患者看護法
一　齒科病患者看護法
一　實習

前項ノ外三期ニ分チ課外トシテ裁縫及作法ヲ教授ス

第四條　後學年ハ專ラ看護法ヲ實習セシム

第五條　前學年ノ終リニ於テ學科試驗ヲ行ヒ合格者ヲ進級セシメ後學年ノ終リニ於テ卒業試驗ヲ行ヒ合格者ニ卒業證書ヲ授與ス

第六條　講習生ハ在記各號ノ資格ヲ有スル女子ニシテ體格檢查及入學試驗ニ合格シタル者ニ限ル

一　品行方正ナルコト
二　身體健全ナルコト
三　年齡滿十六年以上三十年以下ナルコト
四　配偶者ナク且家事ニ係累ナキコト
五　高等小學校卒業者又ハ試驗ヲ行ヒ之ト同等以上ノ學力アリト認メタル者

第七條　講習生入學試驗學科目左ノ如シ

但高等女學校二學年以上修業者ニハ無試驗トス

一　讀書　高等小學校卒業程度
二　作文　同
三　書取　同
四　算術　同
五　應問

第八條　入學志願者ハ願書(第一號書式)ニ履歷書及戸籍謄本ヲ添ヘ差出スヘシ

但第七條但書ニ依ル者ハ修業證書寫ヲ添付スヘシ

第九條　入學ノ許可ヲ得タル者ハ入學ト同時ニ誓約書(第二號書式)ヲ差出スヘシ

保證人ハ成年以上ノ戸主ニシテ札幌市内ニ居住シ直接國稅ヲ納メ又ハ不動産ヲ所有スル者タルヲ要ス但シ附屬醫院長ニ於テ適當ト認メタル者ハ此限ニ在ラス

第十條　保證人死亡シ又ハ前條第二項ノ資格ヲ失ヒタルトキハ直チニ有資格者ヲ以テ之ニ代ヘ更ニ誓約書ヲ差出スヘシ保證人轉籍轉居又ハ改氏名ノ場合ハ遲滯ナク屆出ヲ爲スヘキモノトス

第十一條　講習科授業開始前更ニ體格檢查ヲ行ヒ不合格ト認ムル者ハ入學許可ノ取消ヲナスコトアルヘシ

第十二條　講習生ハ之ヲ在學中ハ食糧及日給ヲ給シ制服制帽及寢具ヲ貸與シ寄宿舍ニ入ルヘシ日給ハ忌引賜暇又ハ本院ノ命ニ依ル場合以外ノ外泊ニハ之ヲ給セス

第十三條　講習生ハ諸規則ヲ遵守シ上長ノ指揮命令ニ服從スヘシ

第十四條　講習生傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル時ハ官費ヲ以テ之ヲ治療ス但シ自己ノ便宜ニ依リ療養セントスル者ハ此限ニ在ラス

第十五條　講習生ハ卒業ノ日ヨリ滿二箇年間所定ノ給料ヲ受ケ看護婦トシテ勤務スヘキ義務アルモノトス

第十六條　講習生ニシテ成業ノ見込ナキ者又ハ學年所定ノ授業時數ノ三分ノ一以上授業ヲ受クルコトヲ得サリシ者ハ之ヲ除名ス

第十七條　講習生ニシテ第十三條ノ規定ニ違背シ其他不都合ノ行爲アル者ハ相當ノ處分ヲナシ其情狀重キ者ハ退學ヲ命ス

第十八條　左記各號ノ一ニ該當スル者ハ講習中支給シタル學資ヲ一時ニ辨償セシム但シ退學又ハ退職ノ場合特別ノ事情アルモノト認メタル者ハ支給シタル學資ノ一部又ハ全部ノ償還ヲ免スルコトアルヘシ

一　中途退學ヲナス者

二　第十七條ニ依リ退學ヲ命セラレタル者

三　第十五條ノ義務ヲ履行セサル者

（第一號書式）

入學志願書

私儀看護法講習科へ入學志願ニ付御許可被成下度履歴書及戸籍謄本相添へ此段相願候也

年　月　日

本籍（戸主ナラサレハ戸主トノ續柄）
住所
氏　名印
年　月　日生

前者ノ者品行方正ニシテ配偶者ナク且家事ニ係累ナキコト拙者ニ於テ保證候也

本籍
住所
職業
父兄又ハ戸主　氏　名印
年　月　日生

北海道帝國大學醫學部附屬醫院長宛

（第二號書式）

誓約書

私儀今般看護法講習科へ入學御許可ヲ得候ニ就テハ御規則ヲ堅ク相守ルヘキハ勿論御命令ニ違背仕間敷此段誓約候也

年　月　日

本人（戸主ナラサレハ戸主トノ續柄）
住所
氏　名印
年　月　日生

右者今般貴院看護法講習科へ入學御許可ヲ得候ニ就テハ本人誓約ノ通リ堅ク相守ラセ可申同人一身上ニ關スル一切ノ事項ハ拙者ニ於テ引受ケ其責ニ任スヘク且辨償義務ハ代ツテ履行可致此段保證候也

本籍
住所
職業
保證人　氏　名印
年　月　日生

北海道帝國大學醫學部附屬醫院長宛

前書何某ハ成年者ニシテ札幌市内ニ居住シ直接國稅ヲ納ムル(不動産ヲ所有スル)者ニ有之候也

北海道札幌市長　氏　　名　印

(奥書ハ同意味ヲ記載シタル市長ノ證明書ヲ以テ代用スルコトヲ得)

○産婆養成所規則

第一條　本養成所ハ産婆ニ必要ナル學術ヲ授ケ且實地練習ヲ爲サシムルヲ以テ目的トス

第二條　本養成所ニ本科竝補習科ノ二科ヲ置ク

一、本　科

第三條　修業年限ヲ二年トシ之ヲ二學年ニ分ツ前學年ハ更ニ之ヲ左ノ三期ニ分チテ學科ヲ教授シ兼テ實習ヲ課シ後學年ハ專ラ實習ニ就カシム

第一期

一、修　身
一、解　剖
一、生　理
一、衞　生
一、一般看護法
一、一般消毒法
一、正規姙娠分娩産褥及其取扱法

第二期

一、修　身
一、異常姙娠分娩産褥及其取扱法
一、生兒取扱法
一、救急療法
一、模型演習
一、臨床實習

第三期

一、修　身
一、婦人科學大意
一、産婆心得
一、模型演習
一、臨床實習

實習中ハ本院看護婦規則ニ從ハシム

第四條　學年ハ五月一日ニ始リ翌年四月三十日ニ終ル

第五條　前學年ノ終ニ於テ學科試驗ヲ行ヒ合格者ヲ進級セシメ後學年ノ終ニ於テ卒業試驗ヲ行ヒ合格者ニ卒業證書ヲ授與ス

第六條　生徒ハ左記各號ノ資格ヲ有スル女子ニシテ體格檢査及入學試驗ニ合格シタル者ニ限ル

一、品行方正ナルコト
二、身體健全ナルコト
三、年齢滿十八歲以上三十五年以下ナルコト
四、家事ニ係累ナキコト

五、高等小學校卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力アリト認メタル者

第七條　入學試驗學科目左ノ如シ但高等女學校三學年以上修業者ハ無試驗トナスコトヲ得

一、讀　書　高等小學校卒業程度
二、作　文　同
三、書　取　同
四、算　術　同
五、應　問

第八條　入學志願者ハ願書(第一號書式)ニ履歷書及戸籍謄本ヲ添ヘ差出スヘシ

但第七條但書ニ依ルモノハ修業證書寫ヲ添付スヘシ

第九條　入學ノ許可ヲ得タル者ハ入學ト同時ニ誓約書(第二號書式)ヲ差出スヘシ

保證人ハ成年以上ノ戸主又ハ家計主ニシテ札幌市内ニ居住スル男子タルヘシ

第十條　生徒ヲ分チテ自費生及給費生トス

第十一條　生徒ハ實習ノ爲院内ニ寄宿セシムルコトアルヘシ

第十二條　自費生寄宿ヲ命セラレタル場合ト雖其ノ食料、帽、服、寢具等ハ自辨トス

第十三條　自費生ハ授業料一ケ月壹圓五拾錢ヲ每月五日迄ニ納付スヘシ但八月分ハ納付スルニ及ハス一旦納付シタル授業料ハ如何ナル場合ト雖還付セス

第十四條　生徒ハ諸規則ヲ遵守シ上長ノ指揮命令ニ服從スヘシ

第十五條　生徒ニシテ成業ノ見込ナシト認メラレタル者又ハ不都合ノ行爲アリタル者ハ退學ヲ命ス

第十六條　給費生ニシテ中途退學シ又ハ退學ヲ命セラレタル者ニハ在學中支給シタル費用ノ全部ヲ償還セシム但止ムヲ得サル事情アリト認メタル場合ハ其一部若クハ全部ノ償還ヲ免スルコトアルヘシ

二、補習科

第十七條　修業年限ヲ一年トシ實地ニ必要ナル學理ヲ教授シ實習ニ就カシム

第十八條　學年ハ五月一日ニ始リ翌年四月三十日ニ終ル

第十九條　學年ノ終ニ於テ試驗ヲ行ヒ合格者ニ修業證書ヲ授與ス

第二十條　生徒ハ左記各號ノ資格ヲ有スル女子ニシテ身體檢查ニ合格シタル者ニ限ル

一、左ノ諸項中ソノ一ヲ具備スルコト
(イ)地方長官施行ノ產婆試驗ニ合格シタル者
(ロ)內務大臣ノ指定シタル學校又ハ講習所ヲ卒業シタル者
(ハ)外國ノ學校又ハ講習所ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ產婆免許ヲ得タルモノニシテ內務大臣ノ適當ト認メタル者

二、品行方正ナルコト

三、身體健全ナルコト

四、家事ニ係累ナキコト

第二十一條　應募者人員超過ノ場合ニハ產婆學ニ就キテ入學試驗ヲ行フ

第二十二條　入學志願者ハ願書(第一號書式)ニ履歷書及戶籍謄本並ニ產婆免許狀若クハ產婆試驗合格證書又ハ產婆講習所卒業證書等ノ寫ヲ添ヘテ差出スヘシ

第二十三條　第九條乃至第十六條ハ補習科ニモ之ヲ適用ス

(第一號書式)

入學志願書

私儀貴院產婆養成所本(補習)科へ入學志願ニ付御許可被成下度履歷書及戶籍謄本

相添ヘ此段相願ヒ候也

年　月　日

本籍（戸主ナラサレハ戸主トノ續柄）
住所　　氏名　　年月日生

前書ノ者品行方正ニシテ家事ニ係累ナキコト拙者ニ於テ保證候也

本籍
住所
職業
父兄又ハ戸主　　氏名　　年月日生

北海道帝國大學醫學部附屬醫院長宛

（第二號書式）

誓約書

私儀今般貴院産婆養成所本（補習）科ヘ入學御許可ヲ得候ニ就テハ御規則ヲ堅ク相守ルヘキハ勿論御命令ニ違背仕間敷此段誓約候也

年　月　日

本籍（戸主ナラサレハ戸主トノ續柄）
住所　　氏名　　年月日生

右者今般貴院産婆養成所本（補習）科ヘ入學御許可ヲ得候ニ就テハ本人誓約ノ通リ堅ク相守ラセ可申同人一身上ニ關スル一切ノ事項ハ拙者ニ於テ引受ケ其責ニ任スヘク且ツ辨償義務ハ代リテ履行可致此段保證候也

本籍
住所　　氏名　　年月日生
職業
保證人

北海道帝國大學醫學部附屬醫院長宛

注意　保證人死亡又ハ其ノ資格ヲ失ヒタルトキハ後繼者ニ於テ誓約書ヲ差出スヘシ保證人轉籍住所變更改氏名ノ際ハ遲滯ナク届出ツヘシ

○病的材料檢査科規程

第一條　北海道帝國大學醫學部附屬醫院ニ病的材料檢査科ヲ置ク

第二條　本科ハ醫師其他公衆ノ依賴ニ應シ別項ニ示ス如キ檢査ニ從事ス

第三條　檢査員ハ北海道帝國大學醫學部又ハ同附屬醫院ノ職員ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　檢査ヲ依賴セントスルモノハ該材料ニ檢査ノ事項ヲ指定シ所定ノ檢査料ヲ添ヘテ之ヲ持參シ又ハ郵送スヘシ但郵便物包裝規則第十一條ニ該當スル檢査材料ヲ郵送スル場合ニハ同條ノ手續ヲ履ムコトヲ要ス

第五條　一旦提出シタル檢査材料及檢査料ハ何等ノ事故アルモ返却ノ請求ニ應セス但シ檢査材料ノ變化亡失等ニ依リ檢査不能ノ時ハ檢査料ヲ徵收セサルコトアルヘシ

第六條　本科ニ於テ檢査ノ依賴ニ應スヘキ事項及檢査料左ノ如シ

一　喀痰　　金壹圓

細菌學的檢査

A 顯微鏡檢査　　各　金壹圓

檢査依賴細菌ノ有無一種ニ付

寄生蟲卵血液其他指定ノ病的成分有無

B 培養檢査　　各　金壹圓

C 動物試驗　　金壹圓五拾錢

二　胃　液（試驗朝食即チ食パン七拾瓦茶一杯約三〇〇瓦ヲ與ヘ一時間後ニ採取セルモノヲ直チニ送付ノコト）　金五圓

酸ノ定性定量及病的成分ノ顯微鏡的及化學的檢査

三　糞　便

細菌學的檢査

腸窒扶斯及パラチフス菌　　各　金貳圓

赤痢菌

コレラ菌

赤痢アメーバ　　金壹圓

顯微鏡的檢査　　金壹圓

寄生蟲卵　　金壹圓

其他病的成分ノ有無　金壹圓

化學的檢査

血色素　金壹圓

四　尿（成ルヘク新鮮ナルヲ要ス）

化學的及顯微鏡的普通檢査　各金五拾錢

蛋白糖分血液膽色素ノ定性試驗及圓擣血球病的細胞ノ有無

定量化學的檢査　各金壹圓

蛋白糖ノ定量試驗　金貳圓

細菌學的檢査

腸窒扶斯菌及パラチフス菌　普通檢査　金壹圓

結核菌　動物試驗　金五圓

五　血液（患者ヲ來院セシメ又ハ塗布標本ヲ送付ノコト）　金壹圓

赤白血球數血色素量

病的血球ノ有無　金壹圓

腸窒扶斯及パラチフス菌ノ膽汁培養檢査　金壹圓

（血液ヲ少量膽汁培養基ニ加ヘテ提出ノコト）

（膽汁培養基ハ本科ニツキ請求セラルヽトキハ提供ス）

マラリヤ原蟲　金壹圓

再歸熱スピロヘーテ　金壹圓

其他血液寄生蟲　金壹圓

六　血清（發泡液ニテモ妨ナシ）

ワツセルマン氏反應　金壹圓

（同時ニザックス・ゲオルギー沈降反應ヲモ行フ）

（一週二回火金曜日ヲ檢査日トス）

腸チフス菌パラチフス菌凝集反應檢査　金壹圓

（檢査日火金曜日）

但シ檢査日以外ノ日ニ申込ミタル分ハ料金倍額トス

七　腰穿刺液　　金壹圓

普通檢査

比重蛋白量白血球ノンネ、アペルト氏反應パンデ井ー氏反應

細菌血清學的檢査

結核菌腦脊髓膜炎菌肺炎菌其他及ワツセルマン反應　金壹圓五拾錢

八　切除材料及剖見材料　　金參圓

病理組織學的檢査

○北海道帝國大學寄宿舍規程

第一條　本學寄宿舍ハ豫科生徒ヲ寄宿セシムルモノトス

第二條　入舍セントスル者ハ所定ノ願書ニ學醫ノ健康診斷書ヲ添ヘテ生徒監ニ差出スヘシ

第三條　所定ノ手續ヲ經タル後生徒監ニ面會シ生徒監試問ノ上其ノ詮衡ニ合格シタル者ニ入舍ヲ許可ス

第四條　寄宿舍各室ノ人員配置ハ生徒監之ヲ定ム

第五條　轉室ノ場合ハ其ノ旨生徒監ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第六條　舍生ハ猥リニ退舍スルコトヲ得ス但シ病氣又ハ已ムヲ得サル事由ニ依リ退舍セントスル場合ハ診斷書又ハ事由書ヲ具シテ願出テ生徒監ノ許可ヲ受クヘシ

第七條　寄宿料ハ一人一ケ月金貳圓五拾錢トシ毎月其月末日マテニ會計課ニ納付スルモノトス但シ十五日以降ニ入舍シタル場合及十五日以前ニ退舍シタル場合ハ其月ノ寄宿料ハ半額トシ閉舍一ケ月ニ亘ルトキハ之ヲ徵收セス

第八條　寄宿料納付ノ義務ヲ怠リタル者又ハ舍則ニ違背シタル者ニハ退舍ヲ命ス

第九條　中途退舍スル者又ハ中途退舍ヲ命セラレタル者ハ即時寄宿料ヲ納付スヘシ

第十條　既納ノ寄宿料ハ如何ナル理由アルモ之ヲ還付セス

第十一條　寄宿料ハ外泊又ハ旅行等ノタメ在舍セサルコトアルモ之ヲ徵收ス

第十二條　舍内ノ物品ヲ毀損又ハ亡失シタル者ニハ情狀ニ依リ之ヲ辨償セシメ毀損又ハ亡失シタル者判明セサルトキハ舍生一同ヲシテ辨償セシム

第十三條　舍生ニシテ疾病ニ罹リタルトキハ其ノ種類症狀等ニ依リ期限ヲ附シ退舍又ハ外泊セシムルコトアルヘシ前項ノ外泊十五日以上ニ及フトキハ寄宿料ヲ減額又ハ免除スルコトヲ得

第十四條　本規程ニ關シ必要ナル細則ハ別ニ之ヲ定ム

附　則

本舍則ハ大正十五年拾月一日ヨリ之ヲ施行ス

○概　況

農學部附屬農場

農學部附屬農場ハ第一第二第三第四第五第六第七第八農場及余市果樹園ノ九箇所ニ分レ其ノ中第一第二ノ兩農場ハ本學敷地ニ接スルモ他ハ本道各地ニ散在シ農場全面積約六千二百四十町歩ナリ(別項土地建物及船舶ノ項參看)第一第二ノ兩農場及余市果樹園ハ自營農場ニシテ第一農場ハ學生生徒ノ實習各種ノ試驗標本作物ノ栽培並ニ標本家畜ノ飼育ニ供スル實驗農場タリ其ノ中ニ耕作係畜産係作物係園藝係養蠶係製造係實習係事務係等ヲ置キ學生生徒ノ教育各種ノ試驗ヲ遂行セシム第二農場ハ酪農ヲ主トセル大農經營ヲ行ヒ本道ニ於ケル大農經營ノ研究ニ資スルト共ニ畜牛ノ改良及飼育ニ關スル經濟的試驗ヲ行フ所タリ余市果樹園ハ苹果樹栽培ヲ主トスル果樹園經營法ヲ研究スルヲ主眼トシ併セテ果樹ニ關スル各種ノ學術的試驗ヲ行フ所トス第三農場以下第八農場ニ至ル各農場ハ本學土地貸下規程ニ據リ專ラ小作經營ヲ爲シ以テ小作制度ノ研究並ニ農業經營ニ關スル諸般ノ研究及試驗ニ資スルト同時ニ小作料ヲ徵收シテ本學歲入ノ財源ト爲スヲ目的トスルモノニシテ小作戶數總計(大正十五年三月末)八百三十七戶アリ第一農場ハ更ニ之ヲ左ノ數區ニ分ツ

水　田　畑　地　試驗園　標本園　蔬菜園　果樹園　牧草地　放牧地

一水田　ハ普通試驗ノ二トシ試驗田ハ各般ノ試驗ヲ爲シ普通田ハ學生生徒ノ一般栽培法ヲ實習スル所トス

一畑地　ハ本道普通ノ畑作物ヲ栽培シ學生生徒ヲシテ其ノ栽培收穫ノ方法及馬匹農具等ノ運用法ヲ練習セシムル所トス

一試驗園　ハ穀菽牧草特用作物等ヲ栽培シ各種ノ試驗ヲ行フ所トス
一標本園　ハ農業上關係アル各種ノ植物ヲ栽培シ學生生徒ヲシテ之カ性質及栽培ヲ實習セシムル所トス
一試作園　ハ耕作收納ノ方法ヨリ收支ノ決算ニ至ル迄學生生徒各自ヲシテ之ヲ掌ラシメ農場經營上ノ方法ヲ實地ニ練習セシムル所トス
一蔬菜園　ハ内外各種ノ蔬菜類ヲ蒐集栽培シ學生生徒之カ栽培蕃殖方法等ヲ實習シ且各般ノ試驗ヲ行フ所トス
一果樹園　ハ本道ニ適スル各種ノ果樹類ヲ栽培シ學生生徒之カ栽培蕃殖ノ方法ヲ實習シ且各種ノ試驗ヲ行フ所トス
一牧草地　ハ牧草ヲ栽培シ學生生徒ヲシテ其ノ栽培收穫方法等ヲ實習セシメ併セテ家畜ノ飼料ヲ收ムル所トス
一放牧場　ハ夏期牛馬及綿羊ヲ牧養シ而シテ其ノ放牧方法ヲ學生生徒ニ實習セシムル所トス

農學部附屬演習林

農學部附屬演習林ハ本道内ニ四箇所樺太朝鮮臺灣及和歌山縣ニ各一箇所合計八箇所面積十一万八千三百九十三町一反八畝十六歩三九一アリ即チ本道内ニ在ルモノハ苫小牧雨龍天鹽第一天鹽第二演習林ニシテ樺太ニ在ルモノハ樺太演習林朝鮮演習林臺灣ニ在ルモノハ臺灣演習林和歌山縣ニ在ルモノハ和歌山演習林トナス外ニ本學構内ニ實驗苗圃木材强弱試驗場及ヒ試驗材料貯藏彙標本陳列室等アリ

(一)苫小牧演習林ハ面積二千二百七十四町歩餘膽振國勇拂郡苫小牧町ニ在リ本林ハ本學演習林中交通至便ノ位置ニ在ルヲ以テ專ラ教官及學生ノ研究並ニ學生生徒ノ實習ニ供シ傍ラ合理的施業案ニ據リ模範的林業ヲ經營シ汎ク世人ヲシテ之ヲ知見セシムルヲ目的トス殊ニ本林ニ於テハ木炭醋酸石灰及椎茸ノ製造所ヲ設置シ學生生徒ニ其實用的製法並ニ濶葉樹ノ集約的利用法ヲ指導ス本林附設樹木園ハ專ラ本道ノ有要樹種ヲ植栽シ學生生徒ヲシテ其林業上ノ性質ヲ見學セシムル所トス

明治四十二年林内字幌内ニ派出所及學生生徒宿泊所ヲ建設シ同四十四年教官宿泊所ヲ增營ス是本林ノ施業ニ從事スルモノヲ派遣シ且研究ノ教官學生並ニ演習ノ學生生徒ヲシテ宿泊セシムルノ用ニ供センカタメナリ大正八年更ニ事務所ヲ新築シ林内氣象觀測所ヲ設ケ略二等測候所ニ準スヘキ觀測ヲナスコトトセリ又大正十二年度ニハ事務所及學生生徒宿泊所ノ增築模樣替ヲ行ヒタルヲ以テ研究並實習上益便宜ヲ得ルニ至レリ其他本林經營ニ須要ナル勞力ハ林内殖民者ヲシテ之ヲ供給セシムル組織ナリ

(二)雨龍演習林ハ概測面積三万町歩石狩國雨龍郡幌加内村ニ在リ本林ハ今日尚交通ノ便ヲ欠キ學生生徒ヲシテ實地演習ヲナサシムルニ遺憾ノ點尠カラス然レトモ目下深川ヨリ起工中ニ屬スル雨龍鐵道完成ノ曉ニハ本林ノ經營上ハ勿論演習並研究上多大ノ便益ヲ享クルニ至ルヘキハ言ヲ俟タス此地方ハ農耕地比較的多カラサルヲ以テ勞働者常ニ不足スルカ故ニ先林業經營ノ第一着手トシテ林内植民ヲ行ヒ必須ナル林業夫ヲ養成シ將來交通機關ノ具備スルト共ニ漸次集約的經營法ヲ施行セントス現ニ百有餘戸ノ小作者ヲ有ス目下假施業案ヲ編成シ人工造林法天然造林法森林利用法等ヲ研究シ傍ラ教官學生ノ研究資

料學生生徒ノ卒業論文材料等ヲ採收セシム

明治四十二年林内第一號殖民地ニ看守所ヲ設置セシカ同所ハ本林ノ南端ニ偏在シ演習林ノ經營上不便尠カラサルヲ以テ更ニ林内第八號殖民地ヲ相シ大正七年派出所ヲ同九年教官宿泊所及ヒ官舍二戸ヲ新築シ當該施業員ヲ駐在セシメ大正五年ヨリハ直營ニヨリ伐木造材ヲ行ヒ森林ノ集約的利用並ニ整理改良ニ努メツツアリ

(三)天鹽第一演習林ハ天鹽國中川郡常盤中川兩村ニ跨リ面積凡一万九千六百五十四町歩アリ本林ハえぞまつ、とどまつノ蓄積尠カラサルノミナラス有要濶葉樹ニ富ミ苫小牧演習林ニ亞キ交通便利ナルヲ以テ大正二年以來學生生徒ノ實地演習ノ用ニ供セラル本林モ亦土地利用並ニ森林經營ノ目的ヲ助成センカ爲林内殖民ヲ實施シ現在戸數七十餘戸アリ目下假施業案及學生實習ノ爲一局部ニ對シ編成セル施業案ニ據リ有利且保續的ノ作業ヲ行ヒ又木材ノ集約的利用竝更新ノ萬全ヲ計ルタメ大正四年以來官行研伐事業ヲ實行シツツアリ

明治四十四年中川村唉來ニ派出所ヲ設置セシカ大正三年宗谷線鐵道ノ林内ヲ貫通スルニ至リ交通大ニ開ケタルヲ以テ大正四年之ヲ林内上音威子府ニ移轉

シ別ニ教官及學生生徒ノ宿泊所ヲ增設セシカ大正十一年更ニ駐在職員ノタメ官舍二戸ヲ新築セシヲ以テ林學諸般ノ研究實習並本林ノ經營上至大ノ便ヲ得ルニ至レリ又大正五年九月ヨリ同所ニ林内氣象觀測所ヲ設置シ略二等測候所ニ準スヘキ觀測ヲナシツツアリ

(四)天鹽第二演習林ハ面積凡二万二千七百三十三町歩天鹽國天鹽郡幌延村ニ在リ本林ハ大正二年ノ設置ニ係リ大部分ハえぞまつとどまつ林ナレトモ有要濶葉樹亦尠シトセス大正二年假施業案ヲ編成シ有利且保續的作業ヲ行フニ務メ又木材ノ集約的利用並更新ノ萬全ヲ計ルタメ大正六年以來官行研伐事業ヲ實行シツツアリ

大正三年幌延村字トヨカンベツ川口ニ派出所ヲ置キ當該施業員ヲ駐在セシメ又同八年派出所及所員官舍ヲ新築シ漸次諸般ノ設備ヲ整ヘ實行歩武ヲ進メツツアリ

(五)樺太演習林ハ概測面積一万九千九百町歩樺太西海岸泊居支廳管内ニ在リ珍内川左岸一帶ヲ包有シ其主林木ハえぞまつとどまつニシテ僅ニ樺類ヲ混生ス本林ハ大正三年ノ設置ニ係リ未タ全般ニ亘リ秩序的施業ヲ實行スルノ運ニ至

ラスト雖モ學術的模範林業ヲ經營スル目的ヲ以テ大正九年八千八百町歩餘ノ地域ニ對シ假施業案ヲ編成シ大正十二年度ヨリ天然更新試驗ヲ開始セリ

大正三年派出所ヲ蔚菱ニ置キテ管理者ヲ派遣シ又大正八年派出所及教官宿泊所ヲ久春内ニ新築移轉セリ目下主トシテ林況ノ調査ヲ行ヒツツアリ

(六)朝鮮演習林ハ面積一万六千五百四十四町歩餘ニシテ全羅北道茂朱郡ニ在リ大正二年朝鮮總督府ヨリ八十ケ年間ノ契約ヲ以テ無償貸付ヲ受ケ設置シタルモノニシテ外ニ苗圃地トシテ無償貸付ヲ受ケタル官有地二ケ所面積七町五反六畝二十五歩及苗圃並廳舍敷地トシテ購入シタルモノ三ケ所面積一町六反九畝七歩ノ附屬地アリ本林ノ内約三分ノ一ハ無立木地約五分ノ一ハ稚樹發生地ナルヲ以テ之カ造林及稚樹ノ撫育ハ一日モ等閑ニ附スヘカラス依テ學術的模範林業ヲ經營スル目的ヲ以テ大正八年假施業案ヲ編成シ植伐ノ方針ヲ定メ主トシテ造林撫育ニ意ヲ注キ年々二百町歩以上ノ人工造林ヲナスト同時ニ稚樹ノ保護撫育ニ務メ植栽面積一千五百町歩ニ及フ

大正三年茂朱郡茂朱面ニ派出所ヲ置キ同七年廳舍ヲ建設シ同十一年ニハ同地ニ官舍一棟ヲ增設シ以テ施業員ヲ駐在セシメ諸般ノ經營ニ着手セシヲ以テ教

官並ニ學生ノ研究上便宜ヲ得ルコト勘カラス又大正十年雪川面深谷里安城面竹川里ノ二箇所ニ看守ヲ新築シ請願警察官ヲ駐在セシメ本林ノ保護ニ當ラシム臺灣演習林ハ概測面積六千八百四十六町歩ニシテ臺中州能高郡ニ在リ森林植物帶上熱帶ヨリ溫帶ニ亘リ學術研究上極メテ重要ノ箇所ナリト雖モ其大部分ハ蕃界ニ屬シ且通運ノ便ヲ欠キ未タ秩序的施業ヲ行フノ時期ニ達セサルヲ以テ大正十二年先假施業案ヲ編成シ主トシテ無立木地ノ造林ニ意ヲ注キ漸次本林ノ整理改良ヲ行ハントス大正六年埔里街ニ派出所ヲ設ケ管理者ヲ派遣シ同九年度現在敷地一町二反六畝餘ヲ購入シ廳舍ヲ新築セリ

(七)和歌山演習林ハ面積四百三十一町歩餘和歌山縣東牟婁郡七川村ニ在リ古座川ノ上流ニ位シ森林植物帶中暖帶林ニ屬シ大部分ハかし類しひ類くす其他ノ常綠濶葉樹林ニシテ高所ニハ點々つがひのき、もみ等ノ針葉樹ヲ混生ス從テ本邦森林ノ最要部ノ一タル暖帶林ニ於ケル各種ノ研究乃至演習ヲ課スルニ適ス本林ハ大正十四年本學ノ所有ニ歸セシモノニシテ未タ秩序的施業ニ着手スルノ運ニ至ラス目下之カ經營ノ基礎材料蒐集中ナリ

(八)實驗苗圃ハ內外各國ノ有要樹種ヲ蒐集シ之カ播種育成ノ方法ヲ學生生徒ニ實習セシメ或ハ各種ノ造林森林保護樹木ノ生長林木ノ耐陰性等ニ關スル試驗ヲ遂行ス

又之ニ附設スル苗圃作業場ハ雨雪ノ際實驗及實習ノ用ニ供スルモノトス大正十年作業場ヲ增築シ硝子室ヲ設ケタルヲ以テ實習竝試驗研究上多大ノ便利ヲ得ルニ至レリ

(九)木材强弱試驗場ハ演習林並ニ本道產各種木材ノ工藝的性質及耐火性等ニツキ試驗研究ヲ遂行シ兼テ學生生徒ノ實驗ニ供スル爲大正四年度新設セルモノナリ

(一〇)試驗材料貯藏彙標本陳列室ハ本學演習林竝內外各國ヨリ蒐集スル各種材料ヲ貯藏スルト同時ニ各演習林生產品試驗研究品及演習林經營竝試驗研究ノ參考資料トシテ內外各地ヨリ蒐集スル標本ヲ陳列スル所ニシテ大正十一年建設セルモノナリ

(二)演習林研究報告　大正四年以來時々演習林研究報告ヲ出版シテ演習林ニ於ケル研究事項ヲ順次發表セリ

第一卷第一號苫小牧地方蝦夷松收穫表　小出房吉

第一卷第二號(一)木材形質商ノ曲線ニ就キテ　林學博士　中島廣吉

(二)薪炭材ノ層積ト實積トノ關係ニ就キテ　林學士　佐藤義夫

第一卷第三號形數速算ノ新法　林學博士　小出房吉

第一卷第四號苫小牧演習林野生植物調査報告　林學博士　中島廣吉

林學士　工藤祐舜

林學得業士　吉見辰三郎

第一卷第五號こがねむしノ被害及ビ驅除ニ關スル研究報告(第一回)　林學博士　新島善直

林學士　楠　菊夫

林學得業士　富本　豐

第一卷第六號(一)楠角材積ノ新速算法　林學博士　小出房吉

(二)樹幹橫斷面積算出法ニ就キテ(第一回)　林學博士　中島廣吉

林學博士　小出房吉

第一卷第七號(一)樹幹橫斷面積算出法ニ就キテ(第二回)　林學士　石尾和作

林學博士　小出房吉

林學士　中村琢磨

(二)樹幹折解ノ際各齡階所屬樹高算定ノ新法(第一回)　林學士　中島廣吉

第一卷第八號(一)野幌地方椴松木材收額表　林學博士　小出房吉

林學士　中島廣吉

(二)北海道產樺木科樹種ノ材ノ解剖學的研究　理學士　工藤祐舜

第一卷第九號(一)同齡林分中ノ各直徑階ニ對スル本數配分關係ノ統計的研究(第一回)　林學士　山林　還

林學士　石尾和作

(二)北海道ニ於ケル桐樹ノ生長ニ就キテ(第一回)　林學博士　小出房吉

林學士　佐藤義夫

第二卷第一號(一)樹幹折解ノ際各齡階所屬樹高算定ノ新法(第二回)　林學士　野崎　清

林學士　中島廣吉

(二)凍結針葉樹材ノ抗折强ニ就キテ　林學博士　宮井健吉

林學士　大澤正之

第二卷第二號こがねむしニ關スル研究報告(第二回)　林學博士　新島善直

林學士　木下榮次郎

第二卷第三號林木ノ生長ト陽光ノ强度トニ關スル數理的研究(第一回)　林學士　影山純介

第二卷第四號林木ノ生長ト陽光ノ强度トニ關スル數理的研究(第二回)　林學士　影山純介

第三卷第一號北海道產木材ノ彈性及强度ニ關スル研究　林學博士　宮井健吉

林學士　大澤正之

第三卷第二號林木ノ生長ト陽光ノ强度トニ關スル數理的研究(改訂)　林學博士　影山純介
號外　米材ノ栞　林學博士　小出房吉
林學士　佐藤義夫

農學部附屬植物園及博物館

植物園ハ札幌市北五條ヨリ北二條ニ跨リ西八丁目ヨリ十一丁目ニ亘リ面積三萬六千五百餘坪ヲ有ス本園ハ本道所産ノ植物及內外ノ種類ヲ汎ク蒐集栽培シ其ノ分類所屬ヲ明カニシ植物學實地教授用並ニ研究ノ料ニ共スルノミナラス本道ノ風土ニ適スルヤ否ヲ試驗シ以テ本道ノ園藝及造林上ニ稗益セントスルニ在リ園內ヲ自然分科園樹木園灌木園試驗園及溫室附屬園ノ五區ニ分割シ培養ノ植物種類約六千種ヲ有ス溫室ハ專ラ暖國產ノ植物ヲ培養シ冬期間植物學研究ノ材料ニ供シ又植物生理ノ實驗場トス

本園ハ札幌市內最モ幽邃閑雅ノ地ニ在リ衆庶競ウテ縱覽シ恰モ一ノ教育的公園タルノ觀アリ今植物園及博物館縱覽規程ニ依リ大正十四年四月一日ヨリ同年十一月末日ニ至ル開園日數ヲ擧クレハ二百二十八日ニシテ參觀人ハ十四万二千八百五十七人ナリ

博物館ハ植物園內ニ在リ本館ハ元開拓使ニ於テ明治四年中道內ニ產スル天產及ヒ人工ノ物品ヲ札幌市北七條西四丁目偕樂園內ニ蒐集シ開場ノ日ヲ定メテ衆庶ノ縱覽ニ供シタルニ權輿シ同十四年中東京芝山內開拓使假博物場ノ陳列物ノ一部ヲ收容シ場內狹隘ヲ告クルニ至レルヲ以テ現在ノ場所ニ移轉新築シ同十六年中竣工セル木造二階建ナリ是ヨリ先キ十五年七月開拓使ヨリ農商務省博物局ノ所管ニ移サレテ札幌博物場ト稱シ物品陳列ノ目的ヲ更ヘ專ラ拓殖上ニ裨益スル勸業方面ノ物品ト其ノ製品ニ用井ラルル器具類トヲ陳列スルコトトセリ然ルニ十六年七月又北海道事業管理局ノ所管ニ移リ十七年七月始メテ札幌農學校ノ所屬ニ歸スルニ及ヒ同校博物場ニ藏セル標本ヲモ合併シテ陳列ヲ再ヒ純博物館的ニ復シ以テ今日ニ至レリ而シテ本館ノ陳列品ハ學生生徒研究上ノ用ニ供スルヲ以テ目的トスト雖又本道產ノ概況ヲ窺知セシメンカタメニ日時ヲ限リ衆庶ノ縱覽ヲ許セリ今大正十五年三月末現在貯藏標本數ヲ合計スルトキハ一万四千二百七十七點ナリ之ヲ大別シテ天產部勸業部史傳部及圖書寫眞ノ四門トス尙大正十四年四月一日ヨリ同年十一月末日ニ至ル開館日數ハ二百二十八日ニシテ參觀人ハ十四万二千八百五十七人ナリ

醫學部附屬醫院

本學醫學部附屬醫院ハ大正十年十一月一日ヨリ開院シ醫學上ノ研究及ヒ授業ノ目的ヲ以テ外來及ヒ入院ノ患者ヲ診療スル所ニシテ外來患者ノ診察ハ日曜日及ヒ祭日祝日ヲ除キ毎日之ヲ施行シ又入院患者ハ施療ヲ主トシ其ノ病症學術研究上須要ト認ムル者ニ限リ入院ヲ許シ私費患者ニ在リテモ亦其ノ病症ニ依リテ入院セシム

本院ニハ本院ノ看護婦タラント欲スル者ヲ養成スル爲メ看護法講習科ヲ設ケ患者ヲ看護スルノ方法ヲ授ク其ノ講習期間ハ二箇年ナリ又別ニ產婆養成所ヲ設ケ一般產婆ニ必要ナル學術ヲ授ケ且實地練習ヲ爲サシム本所ニハ本科並補習科ヲ置キ其修業年限ヲ本科二箇年補習科一箇年トス

附屬圖書館

本館ハ明治三十五年工ヲ起シ同年竣工ス館内ハ職員閱覽室學生生徒閱覽室圖書貸渡室事務室等ノ數室ニ分ツ學生生徒閱覽室ハ百餘人ヲ容ルルヲ得圖書目錄檢索席參考圖書閱覽席ヲ備フ更ニ大正十四年九月新聞雜誌閱覽席及事務室ノ一棟ヲ增築ス書庫ハ在來二層ノ煉瓦造一棟ノ外大正十一年十二月更ニ鐵筋コンクリート三階一棟ヲ增築シ新舊兩棟ヲ合シ九万册ノ圖書ヲ容ルルニ足ル現今所藏ノ圖書ハ大正十五年十月末日ノ調査ニヨレハ和漢書五萬四千三百九十四册洋書八萬八千五百五十五册圖類三千七百五十一枚アリ圖書分類ハ十進法ニ依リ之レニ多少ノ修正ヲ加ヘタリ

又記念ノタメ他ヨリ寄贈アリタル文庫ヲ掲クレハ左ノ如シ但シ其ノ員數ハ前掲中ニ包含セリ

記念文庫名	寄贈者	種類	員數	年月
石井小太郎	南鷹次郎其他	洋書	二十册	明治三十五年
橋口文藏	札幌同窓會	洋書	二十二册	同三十七年
坂井菊松	松村松年其他	洋書	八册	同卅八年九月
平山八十五郎	山田玄太郎其他	洋書	四册	同卅八年九月
苅宿幸夫郎	長嶺林三郎其他	洋書	六册	同卅九年三月

二宮尊徳	かめら會	和書	六十	冊	同
大竹温厚	大竹本民	和洋書	百九冊四十六冊	同	四十二年十一月
中村令	中村和義	和書	百三十三	冊	同
藤井荘三郎	藤井定二郎	洋書	十	冊	同
阿部恭夫	阿部宇之八	和洋書	一冊三	冊	大正元年九月
桑山茂	桑山貞常	洋書	十三	冊	同
大瀧圭之介	大瀧丈夫	洋書	百十六	冊	同
鈴木重禮	鈴木重一	和洋書類	六十冊百二十七冊六	枚	同
村上又二郎	二宮徳	洋書	十二	冊	同
三浦慶太郎	三浦慶雄宮部金吾	和洋書	二十七冊五十二	冊	同
瀧臣弱	半澤洵	洋書	十一	冊	大正四年十月
畑治作	東海林力藏	洋書	二十	冊	同
宮部金吾	宮部金吾	和洋書	一冊四十七	冊	同
南鷹次郎	南鷹次郎	洋書	三百九十一	冊	同
小川丈夫	小川丈夫	和洋書	一十三	冊	同

小川運平	小川丈夫	洋書	二十	冊	同
	山田玄太郎其他	洋書	四十	冊	同
村田庄次郎	八田三郎其他	洋書	三	冊	同
新渡戸稲造	新渡戸稲造	和洋漢書	四十四冊百九十九	冊	同
	新渡戸稲造	和洋書	二十六冊六百六十五	冊	同
辻重忠	湯地定彦其他	洋書	八	冊	同
松井精一	田中イク	洋書	七	冊	同
吉井豊造	大島金太郎其他	和洋漢書	三百九十九冊百八十六	冊	同
關谷喜一郎	關谷善吉	洋書	十二	冊	同
菅原治作	山村ヤス	和洋書	百	冊	同

又奨學資金寄贈者ノ指定ニヨリ設ケタル文庫左ノ如シ　（大正十五年十月現在）

文庫名	種類	員數
穂積貞三	和洋書	百五十一冊
	洋書	二十五冊
佐藤昌介	和洋書	百二十六冊
	洋書	五十七冊

寄宿舍

寄宿舍ハ本學ノ中央ニ在リ明治卅六年ノ建築ニ係ル建物ハ木造二階建二百九十六坪ニシテ附屬平家建木造二百四十一坪五合石造三十坪アリ舍室ハ二棟ニシテ階上階下共ニ九區ニ劃シ三十六室アリ其ノ內三十一室ハ每室四人ヲ容レ其ノ餘ノ五室ハ自炊制度ノ委員室集會室及娛樂室等ニ充テ三十八年四月ヨリ舍生ヲ收容ス大正八年ニ至リ附屬大學豫科生ノ定員增加ノタメ同年九月更ニ木造二階建百十坪一棟ヲ增築セリ此ノ新館ハ階上階下共ニ七區ニ劃シ十四室アリ同十一年四月更ニ又木造二階建百八十六坪ヲ二十四區ニ劃シ每室四人ヲ收容スヘキ一棟ヲ新設ノ外食堂平屋木造三十坪炊事場石造平屋十六坪ヲ增築シ總計七十四室ニシテ舍生ヲ收容シ得ヘキ室數ハ六十九室ナリ大正十五年三月末日現在ノ舍生ハ左表ノ如シ

豫科	種別	第三年	第二年	第一年	計
三		四九	一〇四	一五六	

水產專門部臨海實驗所及練習船

本學附屬水產專門部ノ臨海實驗所ハ後志國忍路郡忍路村ニ在リ地積一千二百二十二坪練習船其ノ他漁舟漁具等ヲ備ヘ附屬水產專門部生徒ヲシテ水產製造ノ實習水產動植物ノ實驗航海運用ノ練習及ヒ浮游生物ノ實驗等ヲ行ハシム

練習船忍路丸ハ明治四十二年ノ建造ニ係リ百六十噸ブリカンタイン型ノ帆船ニシテ根據地ヲ小樽港ニ置ク本船ハ生徒ヲシテ遠洋漁業ノ實習航海運用術ノ實地演習及ヒ外洋ニ於ケル海洋學的研究ヲ爲サシムルノ用ニ供ス又實習船第二鷗丸ハ大正十一年八月ノ建造ニ係リ十九噸三十馬力ノ鐵船ケッチ型發動機船ニシテ每年六月下旬ヨリ九月上旬ニ亘リ本道南沿岸ニ於ケル鮪鮫秋刀魚及ヒ烏賊ノ漁業實習ニ充ツ

土地建物及船舶

一、土地

（大正十五年三月末現在）

所用	所在地	地積	價格
本部敷地	札幌市北八條西五丁目	二二、三五〇坪 一五七	六九、七五〇、三六一円
農學部敷地	同　北八條西六丁目	五〇、九二〇 一〇〇	三九八、九三十、八六〇
醫學部敷地	同	五一、一三五、三六〇	一五、三四〇、六〇八〇
工學部敷地	同	二〇、〇七五、四三〇	六〇、二二五、二九〇
寄宿舍敷地	同	五、九五八、五〇〇	四〇、一二七、七〇〇
職員官舍敷地	同　北八條西五丁目 同　北十二條西三丁目	四三、九六七、八〇	二一、三九一、〇九〇
植物園敷地	同　北二、三、四條西八、九、十丁目	三六、五〇六、七四二	四九六、〇九〇、五六六
臨海實驗所敷地	後志國忍路郡熊谷村字忍路	一、二二一、〇〇〇	六、一一〇、〇〇〇
第一農場敷地	札幌市北八條西六丁目	一八八、〇四四、二七三	七五、二一七、〇九二
第二農場敷地	同　北八條西五丁目	二二七、四三七、九一二	六八、二三一、三五六
第三農場敷地	札幌郡札幌村字レツレツプ	九五三、二四二、〇〇〇	四七六、六二一、〇〇〇
第四農場敷地	札幌郡豐平町大字平岸村字簸舞	一、九四二、八四二、〇〇〇	五八二、八五二、六〇〇
第五農場敷地	夕張郡角田村字ウエンベツ	一、五一〇、〇〇〇、〇〇〇	七六〇、〇〇〇、〇〇〇
第六農場敷地	夕張郡角田村字アノロ	二、一四〇、一〇〇、〇〇〇	一、〇七〇、一〇〇、〇〇〇
第七農場敷地	龜田郡七飯村字大中山字七飯	二三九、七三五、三〇	一一九、八六一、七六五
第八農場敷地	空知郡下富良野村山部村	二、三七七、二一〇、六一一	三、四二三、一一五、一六三
余市果樹園敷地	後志國余市郡余市町大字山田村	二二〇、二一五、五五	二二、六六九、〇〇〇
雨龍演習林敷地	雨龍郡幌加内村	九〇、〇〇〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇、〇〇〇
苫小牧演習林敷地	膽振國勇拂郡苫小牧村字オテイネ	六、八二二、五六〇、〇〇〇	六、八二二、五六〇
天鹽第一演習林敷地	天鹽國中川郡常盤村	五八、九六〇、七五九、五三二	五八、九六〇、一六〇
天鹽第二演習林敷地	天鹽國天鹽郡幌延村字トイカンペツ	六八、二二七、四九八、〇〇〇	六八、九四六、二二二
樺太演習林敷地	樺太西海岸珍内川流域久春内郡壽町、三濱村	五九、七二三、四六〇	三〇、二六九、四三〇
朝鮮演習林敷地	朝鮮全羅北道茂朱面邑内里、雪川面深谷里、安城面竹川里	五、〇八七、〇〇〇	二、〇三二、八三〇
臺灣演習林敷地	臺灣臺中州能高郡埔里街水頭	二〇、五四一、七八四、八六〇	八、六六二、〇三〇

區別	種類	建物坪數	價格
和歌山演習林敷地	和歌山縣東牟婁郡七川村大字平井字成井谷		一、二九四、一八〇〇〇
	同縣同郡同村大字同字上地平		五一、五一四
	同縣同郡同村大字同字中地平		八八〇
附屬地	札幌市北二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、（以西六、七、八、九、十、丁目		六四、四一四、四二三
	計		三一八、九八一、〇四九
二、建物			三四、四四一、九三二、七六四
			九、七六一、九五一、〇六三
本部	事務所建	二、三二二、八三〇坪	一八五、七二九、四八七
	倉庫建	二六〇〇〇	三、一九〇、四五〇
	工場建	六〇〇〇〇	七、二四七、九四六
	雜屋建	九八八、八一八	七三、五四〇、九八〇
	事務所建	四、七八六、六三五	四八四、六三〇、三〇九
	倉庫建	一八二、七五〇	三六、五六九、七五四
	工場建	二一〇七〇〇	三四、六九六、七一一
農學部	雜屋建	一、四四三、五一七	一二、四九二、四一
	事務所建	八、九六二、五一四	一、七三〇、五六〇、四五一
	住宅建	一六九、七五〇	二七、九一〇、八五五
	倉庫建	二二二、〇〇〇	六〇、一三七、三〇〇
	雜屋建	一、五四四、〇〇一	二五〇、三三五、六四九
	住宅建	五七八、〇五五	三一、六六九、五四二
	雜屋建	八一、九四四	一、九九七、六二二
	雜屋建	一八二、八八八	五、四四四、一七七
	事務所建	八三、六五二	八三六、二七四
	倉庫建	一五、〇〇〇	二三、七〇三
	雜屋建	一四六、六三三	五、五一五、二一四
	住宅建	一〇五、〇〇〇	一三、三七七、一〇〇
	住宅建	五一、七五〇	八八〇、三四〇
	雜屋建	三三五〇〇	一、四三三、九〇〇
臨海實驗所	事務所建		
植物園	倉庫建		
	雜屋建		
	住宅建		
官舍	雜屋建		
	住宅建		
醫學部	雜屋建		
	倉庫建		
	工場建		
	事務所建		
	雜屋建		
果樹園	住宅建		

農場	雜屋建	五一〇〇	三、九〇二九六〇			
	事務所建	二七五〇〇	一四、六九三七二六			
	住宅建	一三〇三五〇	五、〇七三四三〇			
	工場建	六〇〇〇	三七六、〇七五			
	雜屋建	二六三一〇一	一三四、五九九、八〇四			
演習林	事務所建	三九四、八六〇	三四、〇九六、五八五			
	住宅建	一八八六〇〇	一九、〇七五、九六〇			
	雜屋建	三六五、九一〇	三〇、〇一〇、九〇五			
計		二六、一九〇七七八	三、三一七、八六二、六六〇			

三、船舶

名稱	構造	數量	價格			
練習船忍路丸	補助機關附ブリカンダイン形帆船一四〇噸四八	一隻	一四、四七三	円 二一〇		
同　附屬傳馬船	木造	一	四九五〇〇			
同　第二鷗丸	鋼鐵造補助機關附帆船一九噸五	一	一四、六〇〇、〇〇〇			
漁船	木造（三反形）	一	二、〇〇〇、〇〇〇			
磯船	木造	一	三〇〇〇〇			
端艇	同	二	四三七〇〇〇			
同	同	一	二〇〇〇〇			
計		八	三〇、〇三九、六一〇			

奬學資金

本學設置以來奬學金トシテ寄贈セシ者ヲ掲クレハ左ノ如シ

寄贈名義	寄贈年月	金額	寄贈者
故穗積貞三奬學資金	明治四十三年七月	千圓	穗積陳重
佐藤博士就職二十五年記念奬學資金	明治四十五年六月	五分利公債證書二千圓	佐藤博士就職二十五年記念祝賀會委員長 南鷹次郎 外千百三十四名

同上	農業經濟學圖書購入ノ爲	大正元年八月	同上	千圓	同上	
同上	學生生徒ニ貸與又ハ給與ノ爲	大正二年三月	四分利公債證書	五百圓	同上	
故森源三獎學資金	同上	明治四十五年六月	同上	千圓	故森源三獎學資金募集委員 宮部金吾 南鷹次郎 外百三十名	
吉井博士開講二十五年記念獎學資金	農藝化學圖書講入ノ爲	大正二年十月	特別五分利公債證書	六百圓	吉井博士開講二十五年記念祝賀會委員長 大島金太郎 外四百七十八名	
鈴木武良就職二十九年記念獎學資金	農學圖書購入ノ爲	大正四年七月	四分利公債證書	三百圓	鈴木武良	
橋本博士在職二十五年記念獎學資金	畜産學圖書購入ノ爲	大正六年一月	勸業債券	千圓	橋本左五郎	
佐藤博士獎金資金	學生生徒ニ貸與及給與又農業經濟學圖書購入ノ爲	大正七年十二月	五分利公債證書	一萬圓	塚本源三郎	
內村鑑三謝恩記念獎學資金	學生生徒ノ入學奬勵金充用ノ爲	大正八年六月	五分利公債證書	千圓	內村鑑三	
故野村龍吉獎學資金	畜産學ニ關スル圖書購入ノ爲	大正八年九月	勸業債券	六百圓	野村龍太郎	

故吉井博士記念獎學資金	圖書ヲ購入シ故吉井博士記念文庫增補ノ爲	大正九年二月	五分利公債證書	六百圓	大島金太郎 外七百二名	
大島博士獎學資金	農藝化學研究ノ爲	大正十年一月	四分利公債證書五分利公債證書	四千五百圓五拾圓	大島金太郎	
故有島ヤス子記念獎學資金	學力可良品行方正ナル學生生徒貸與ノ爲	大正十一年一月	五分利公債證書	四千五百圓	有島武郎	
廣井博士還曆記念獎學資金	土木工學科ニ於テ學術研究及奬勵ノ使途ニ充ツル爲	大正十一年十二月	五分利公債證書	三千圓	廣井勇	
高岡博士在職二十五年記念獎學資金	農業經濟ニ關スル雜誌ノ發行若クハ同學ニ關スル學術研究費ノ爲	大正十二年三月	五分利公債證書	三千八百圓	高岡熊雄	
鈴木武良獎學資金	學生生徒ニ貸與又ハ給與ノ爲	大正十三年一月	五分利公債證書	五百圓	鈴木武良	
片岡殖結婚記念獎學資金	農藝化學ニ關係アル圖書購入ノ爲	大正十三年十月	五分利公債證書	千圓	片岡唯一郎 同都喜	

出版

明治三十六年以降出版シタル紀要目錄左ノ如シ

第一號

農學士　橋本左五郎
農學士　松村松年

札幌農學校紀要　第二卷　第

不常牛乳ノ灰ノ成分ニ就テ
日本產泡吹蟲科昆蟲誌

第二號　附圖二版

同　第

理學博士　松村松年
林學士　新島善直
理學博士　松村松年
農學士　素木得一

日本產水棲半翅類ニ就テ
スコリチニ（小蠹蟲科ノ一部）日本種ニ就テ
日本產蠟蟬昆蟲誌

第三號　附圖一版

同　第

農學士　大島金太郎
農學士　三宅勉

燈心ノ成分ニ於テ
日本產纖形科植物ニ寄生スル「プクシニア」ニ就テ

第四號

同　第

農學士　伊藤清藏

世界ノ蠶業競爭ト日本蠶業

東北帝國大學農科大學紀要第三卷第一號附圖二版

日本產螽斯科昆蟲誌

理學博士　松村松年
農學士　素木得一

幼齡やつめノ血管系ノ發生夙期ニ就テノ批評

第二號附圖十版

同　第

林學士　新島善直
農學士　伊藤誠哉

北海道產小蠹蟲及ヒ其森林被害關係
日本產禾本科植物ニ寄生スル銹菌ニ就テ

第四卷第一號附圖二版

同　第

理學博士　松村松年

樺太產昆蟲研究（第一）

第二號附圖七版

同　第

農學士　田中義麿

絹絲蟲ノ解剖及生理ニ關スル研究
一、家蠶ニ於ケル絹絲ノ生成及絹絲腺ノ構造

第三號附圖四版

同　第

農學士　仲尾政太郎

麥類及其雜種ニ於ケル花粉母細胞ノ核分裂ニ關スル細胞學上ノ研究

第四號附圖五版

同　第

農學士　井口賢三

日本ニ於ケル牛族ノ頭骨ニ關スル研究

第五號附圖五版

同　第

農學士　半澤洵

鰹節ノ黴ニ關スル研究

第六號

薯蕷ノ「ムチン」ニ關スル研究	（農學博士	大島金太郎
	農學士	田所哲太郎
れまがりたけ筍ノ炭水化物ニ關スル研究	（農學士	三宅康次
	農學士	田所哲太郎
れまがりたけ筍ノ非蛋白質窒素化合物ニ關スル研究	農學士	三宅康次
鱒卵膜ノ化學的性質ニ就テ	（農學士	三宅康次
	農學士	田所哲太郎
第七號		
日本産「ビストスビテン」及「アコセフアリンネン」ノ研究（浮塵子ノ種類）	理學博士	松村松年
第八號		
大豆及菜豆ノ發芽期ニ於ケル「ベントーザン」及「メチールベントーザン」ノ消長ニ就テ	農學士	三宅康次
同	農學士	三宅康次
「ガラクタン」定量法ノ改良ニ就テ	農學士	三宅康次
第五卷第一號附圖五版		
朝鮮、對馬及鳥取産牛ノ頭骨ニ關スル研究	農學士	井口賢三
同		
亞麻莖浸水ニ關スル研究		
生食品ノ酵素的作用ニ就テ		
第二號		
	農學士	田所哲太郎
	農學士	田所哲太郎

臺灣ニ於ケル貝殻蟲寄生菌ニ就テ	（理學博士	宮部金吾
同	澤田兼吉	
第四號附圖一版		
家蠶ニ於ケル遺傳質ノ考究	農學士	田中義麿
第五號附圖一版		
家蠶ニ於ケル遺傳質ノ「カツプリング」及「レパルション」ニ就テ	農學士	田中義麿
第六號附圖一版		
月本蠶「カハトンボ」科ノ蜻蛉ニ就テ	農學士	小熊捍
第七號		
日本産浮塵子亞科及ヒ或さじよこばい亞科ノ新種	理學博士	松村松年
第八號		
アルカリー土壌中ニ普通ナル鹽類カ水稻ノ生育ニ及ス影響	農學士	三宅康次
第九號附圖八版		
加穀乳ノ結晶ニ關スル研究	農學士	里正義
第六卷第一號		
更ニ蠶ニ於ケル「レヂユープリケーション」ニ就テ	農學士	田中義麿
第二號		
第三號附圖二版		

豆類種實中「クレアチニン」ノ存生ニ就テ　（農學博士）大島金太郎
本邦ニ於ケル酸性土壤ノ膠質性ニ就テ　（農學士）有泉方松
同　農學士　田所哲太郎
日本產草蜻蛉科ニ就テ　農學士　岡本半次郎
同　理學士　佐々木望
螢烏賊ノ研究
同
「ヒバツノマタ」ノ成分ニ就テ　農學士　高橋榮治
本邦ニ於ケル酸性土壤ノ膠質性ニ就テ（其二）　農學士　田所哲太郎
同　理學士　佐々木望
相模灣ヨリ獲タル開眼頭足類ニ屬スル三新種　（獸醫學博士）小倉卸太郎
同　農學士　山根甚信
馴鹿ノ喉嚢ニ關スル知見　（獸醫學博士）小倉卸太郎
所謂內寄生性芥蟲ニ就テ　農學士　市川厚一
「エイアシヤイア」牛種ニ於ケル耳ノ畸形ノ遺傳ニ就テ　農學士　山根甚信

第三號
第四號附圖三版
第五號
第六號附圖一版
第七號附圖三版

馬族ノ「エルゴット」ニ就テ　農學士　吉田新七郎
孵卵期ニ於ケル鳩ノ嗉嚢ニ就テ　農學士　吉田新七郎
鼠及ビ兎ノ胃腺ニ就テ　農學士　吉田新七郎
同
豌豆及ビ稻ニ於ケル開花時ノ遺傳ニ就テ　農學士　星野勇三
同
たらばがに及ビたこノ窒素化合物ニ就テ　農學士　高橋榮治
二三ノ海產動物中ベたいん存在ニ就テ　農學士　高橋榮治
同
我國私有林業ノ改良ニ就テ　林學士　宍戸乙熊
同
穀實ノ物理學的性質間ニ於ケル相關現象及ビ其實用的意義　農學士　明峰正夫
同
蠶ニ於ケル遺傳的研究　農學士　田中義麿
同
「ばるさ、ちあぼにか」ノ寄生ニ因ル染井吉野櫻、梅並ニ其他ノ櫻屬樹ノ一新病害ニ就テ　農學士　逸見武雄

第八號附圖五版
第九號附圖五版
第十號
第七卷第一號
第二號
第三號附圖六版
第四號附圖四版

同　第五號附圖五版
岡山、山形及琉球產牛ノ頭骨ニ關スル研究　農學士　井口賢三

同　第六號附圖二版
日本蚜蟲科ノ研究　理學博士　松村松年

同　第七號
北海道國有林ノ管理ニ就テ　林學博士　宍戸乙熊

北海道帝國大學農科大學紀要第八卷第一號附圖一版
日本有用食蚜蠅科ノ新種ニ就テ　理學博士　松村松年

同　第二號
日本產食用薯塊類ノ炭水化物ニ關スル研究　農學士　逸見文雄

同　第三號附圖三版
赤楊ニ寄生スル一新介殼蟲ニ就テ特ニ其ノ變態ト解剖ヲ論ズ　農學士　小熊捍

北海道帝國大學農學部紀要第八卷第四號附圖三版
瓜哇鼩鼱（ヂヤバヒミズ）其他ノ哺乳類ノ姙娠子宮並ニ成齡哺乳種ノ骨髓ニ於ケル血液生成ニ就テノ研究　エ、ヘ、デフロート

同　第五號
植物細胞質ニ關スル膠質化學的研究　農學士　田所哲太郎

同　第六號
紅藻類ノ粘質物ニ關スル研究　農學博士　高橋榮洽

同　第九卷第一號附圖三版
本邦產植物炭疽病菌ニ關スル知見　農學博士　逸見武雄

同　第二號附圖二版
馬ノ精液ノ理化學的性狀特ニ精虫ノ生理ニ就テノ研究　農學博士　山根甚信

同　第三號附圖一版
馬ノ大腸ノ一畸形ニ就テ　農學博士　山根甚信

同　第四號
蓮種中「ラフイノース」ノ存在ニ就テ　農學博士　逸見文雄

同　第五號附圖六版
日本ニ於ケル牛族ノ研究　農學博士　井口賢三

同　第六號附圖一版
植物炭疽病菌ニ關スル知見補充　農學博士　逸見武雄

同　第十卷第一號
蟷螂ノ特殊染色體　農學博士　小熊捍

同　第二號
北海道產材料ノ「タンニン」含有量　ドクトル、オブ、フイロソフイー（ペンシルバニヤ大學）　ロイド、ポールダーストン

同　第三號附圖九版

紫外分光機ニヨル「有機膠質液ニ對スル鹽類頡頏現象」ノ研究
「メチールフルフロール」及「オキシメチール、フルフロールフロログルシツド」ノ「スペクトル」反應ニ就テ　農學博士　田所哲太郎　第四號附圖三版
同　家蠶ニ於ケル絹絲分泌ノ形態學的研究　山內源登　第五號附圖二版
同　發生中ノ卵ノ實驗的研究　一、兩棲類ニ於ケル齡ト外界　農學士　犬飼哲男　第六號附圖六版
同　生物化學上ニ於ケル呈色反應ノ「スペクトル」ニ就テ　農學博士　田所哲太郎　第七號附圖二版
同　日本粘液胞子蟲類ノ研究　農學士理學士　藤田經信　第十一卷第一號
同　苹果ノ若キ果實ノ早落現象ニ就テ　農學士　並河功　第二號
同　幌莚島植物誌　理學士　工藤祐舜　第三號附圖六版
同　「プラズモパラハルステデ」ニ關スル研究　西村眞琴

同　本邦產單房銹菌屬　農學博士　伊藤誠哉　第四號附圖三版
同　北樺太植物研究第一報　理學博士　工藤祐舜　第十二卷第一號附圖十二版
同　氣象要素ノ樹木生長ニ及ボス影響ニ就テ　林學博士　中島廣吉　第二號附圖十四版
同　本邦ニ於ケル苹樹腐爛病ト其病原菌ナルバルサ・マリニ關スル研究　農學士　富樫浩吾　第三號附圖四版
同　糯米粳米澱粉ニ於ケル膠質性ノ差異ニ就テ　農學博士　田所哲太郎　第十三卷第一號附圖三版
同　特ニ議會討議ノ上ヨリ觀タル米國土地問題ノ經過　農學士　佐藤正一　第二號
同　天南星ニ於ケル性ノ轉移現象ニ就テ　農學博士　中島九郎　第三號附圖一版
同　麥芽根ノ化學的組成特ニホルデニンニ就テ玉葱ノヘミセルロースニ就テ　農學博士　前川德次郎　第十四卷第一號
同　農學博士　橋谷義孝　第二號

特ニ榮養液ノ緩衝能ヲ考察シタルくろかびノ培養ニ就テ　理學博士　坂村　徹

同　第十五卷第一號附圖三版　理學博士　佐々木　望

「アルホートル」類似ノ「クツタラウシ」湖産山椒魚ニ就テ

同　第二號附圖四版　農學士　山極三郎

有尾兩棲類ノ泌尿生殖器系統

同　第三號附圖四版　理學博士農學博士　松村松年

樺太産蝶蛾類ノ列擧ト其新種及ビ亞種ノ記載

同　第四號附圖四版　林學士　村山醸造

臺灣ノナガキクヒムシニ就テ

同　補遺　農學得業士　桑山覺

日本産カマキリモドキ科ニ就テ特ニソノ形態學的特質

同　第十四卷第三號　農學博士　田所哲太郎

同　農學士　中村幸彦

米蚕白質「オリゼニン」ノ糯粳ニヨル理化學性ノ差異ニ就テ　渡邊修吉

同　第四號　農學博士　栃内吉彦

亞麻ノ立枯病菌並ニ炭疽病菌ノ生理ニ關スル比較研究

同　第十五卷第五號附圖四版　農學士　福士貞吉

きむのすべらんぎうむ　やまでーノ寄生ニ起因スル苹樹赤星病ニ關スル研究

同　第十六卷第一號　農學博士　大島金太郎

「メチルベントーザン」ノ定性法ニ就テ

「ベントーザン」及ビ「メチルベントーザン」ノ定量法ニ關スル研究　農學博士　近藤金助

同　第二號　農學博士　田所哲太郎

米ノ品種ニヨル蛋白質「オリゼニン」ノ理化學的特異性ニ就テ　農學士　中村幸彦

糯粳米間ニ於ケル澱粉理化學性ノ差異ニ就テ（二）　渡邊修吉

同　農學博士　田所哲太郎

「プラズモパラ」「ハルステデイ」ノ研究（二）　第十七卷第一號附圖五版　西村眞琴

同　第二號　農學士　並河功

花器ノ脫離及剝落ニ關スル知見　第十八卷第一號　農學博士理學博士　松村松年

同　第二號附圖五版　農學士　内田登一

五種ノ松蚜蟲ト其ノ寄生蟲並ニ食肉性昆蟲ニ就テ

同　北海道帝國大學工學部紀要第一號　工學博士　鷹部屋福平

日本産姫蜂科ノ研究（第一報）　工學博士　山田陽清

完全拘束桁ノ兩端ニ於ケル「モーメント」並ニ軸張力ノ研究

變曲桁ノ振動

○學位授與

學位令第二條ニ依リ本學ニ於テ學位ヲ授與セシ者左ノ如シ

農學博士

學位授與年月日	論文題目	族籍	氏名
大正十一年九月二十日	特ニ議會討議ノ上ヨリ觀タル米國土地問題ノ經過	北海道	中島九郎
同上	養蠶勞働問題	群馬縣	早川直瀬
大正十二年五月三十一日	家蠶ニ於ケル絹絲分泌ノ形態學的研究	長野縣	山內源登
同上	蜜蜂殊ニ日本ノ蜜蜂ニ關スル研究	鳥取縣	德田義信
大正十三年二月十二日	「リゾクトニアソラニー」ノ生理學的研究	東京府	松本巍
大正十三年三月十三日	「テンナンセウ」ニ於ケル性ノ轉移現象ニ就テ	香川縣	前川德次郎
大正十三年三月十七日	一、鼠「スピロヘーテ」ノ研究 二、鼠咬症「スピロヘーテ」ト鼠「スピロヘーテ」トノ異同	岩手縣	葛西勝彌
大正十三年五月十九日	麥芽根ノ化學的成分殊ニ「ホルデニン」誘導體ニ就テ	鳥取縣	稻谷義孝
大正十四年七月二十五日	亞麻ノ立枯病菌及炭疽病菌ノ生理ニ關スル比較研究	岩手縣	栃內吉彥
大正十四年二月四日	「カゼイン」ニ關スル研究	福井縣	近藤金助
大正十四年十二月四日	花器脫離及剝落ニ關スル知見	北海道	並河功
大正十五年一月六日	蒟蒻ノマンナンノ物理化學的研究	北海道	三宅捷

林學博士

學位授與年月日	論文題目	族籍	氏名
大正十二年七月十三日	氣象要素ノ樹木生長ニ及ホス影響ニ就テ	北海道	中島廣吉
大正十四年三月十九日	林木ノ生長ト陽光ノ强度トニ關スル數理的研究	山口縣	影山純介
大正十五年七月一日	修羅運材ニ於ケル合理的制動法ノ研究	石川縣	三浦第二郎

獸醫學博士

學位授與年月日	論文題目	族籍	氏名
大正十一年九月二十日	炭疽菌ノ「カプセル」並各種動物ノ炭疽菌ニ對スル感受性ニ就テノ研究附生理的食鹽水中ニ於ケル炭疽菌ノ運命	福岡縣	右田百太郎

大正十三年二月四日	細菌ノ凝集反應ニ就テノ研究	醫學博士	東京府 田川謙吉
大正十二年四月二十七日	大腦皮質中有髓神經纖維出現ニ關スル研究		岐阜縣 平光吾一
大正十二年十二月二十四日	小腦發育障害ニ關スル研究		北海道 久保喜代二
大正十三年二月九日	黃疸出血性「スピロヘータ」病ニ於ケル急性循環機能不全ニ關スル實驗的研究		三重縣 小田俊郎
大正十三年七月二十九日	組織血液間ニ於ケル水分及食鹽代謝ニ關スル實驗的研究		長野縣 百瀨宗
大正十四年二月二十三日	實驗的肝創ニ移植セル生活組織ノ運命並ニ宿地ノ蒙ル影響ヲ敘シテ生活「タムポン」止血機轉ノ解說ニ及ブ		東京府 河合五郎
大正十四年二月二十七日	胃ニ到ル神經ト胃潰瘍治癒トノ關係		青森縣 神竹之助
大正十四年六月三日	赤外線ノ前房水及血清透過ニ就テ		大分縣 熊埜御堂進
大正十四年六月十九日	外科的領域ニ於ケル赤血球沈降速度並ニ其ノ本態的研究		新潟縣 難波剛平
			東京府 清水亮

大正十四年十月七日	「レントゲン」線的分析法ニ依ル生物組織ノ原子的構造ニ關スル實驗的研究		千葉縣 廣瀨興
大正十四年十月七日	眼諸組織ノ特異性ニ關スル病理學的研究		東京府 佐藤達彌
大正十五年一月二十八日	「グリコエル」溶液ノ水素電極ニ對スル電位ニ及ボス中性鹽ノ作用		東京府 川井左京
大正十五年一月二十八日	一、水「アルコール」混合溶液內ニ於ケル弱電解質ノ解離ニ就テ 二、酸及「アルカリ」ノ化學的構造ト敏度トノ關係 三、二價ノ酸ニ於ケル化學的構造ト「アルコール」敏度トノ關係 四、「メチルアルコール」內ニ於ケル弱電解質ノ解離		愛知縣 水谷通治
大正十五年三月十九日	蛋白質ノ物理化學的性狀ヲ決定スル「フアクター」ニ就テ		北海道 箱崎孝平
大正十五年四月二十日	下水ニ於ケル「バクテリオフアーヂ」ノ出現並ニ之ノ下水ニ對スル態度ニ就テ		山口縣 中島高一
大正十五年七月一日	無鉤纖虫ノ發育ニ關スル研究		千葉縣 礒部美知
大正十五年七月二十一日	最近ノ「バクテリオフアーゲン」結合ニ關スル實驗的研究		北海道 木村眞之助
大正十五年七月二十一日	硬固結締織ノ「クロモトローピー」ニ就テ		東京府 藤井保

○職員異動

任補（自大正十四年十一月至大正十五年十月）

任助教授（工）　一、一一　武田直秀
任教授（醫）　一、一一　毛利高一
農學部兼務　四、五　小川敬一郎
農學部兼務　四、五　多和田寛
任助教授（農）　四、七　龜井專次
任助教授（農）　四、七　中村幸彦
任助教授（農）　四、七　田町以信男
任豫科教授　四、一〇　高橋丑治
任助教授（工）　五、一四　俣野麻太郎
任助教授（工）　五、一四　新郷高一
任助教授（工）　五、一四　山上孝雄
任助教授（工）　五、一四　林猛雄
任助教授（工）　五、一四　吉原英夫
任事務官（醫）　六、七　岡村信雄

助教授　毛利高一
助教授（工）　小川敬一郎
助教授（工）　多和田寛
講師　龜井專次
助手　中村幸彦
助手　田町以信男
講師　高橋丑治
講師　俣野麻太郎
講師　新郷高一
講師　山上孝雄
講師　林猛雄
講師　吉原英夫
書記　岡村信雄

農學部兼務　六、一二　新郷高一
任豫科助教授　六、一四　村上玉樹
任豫科助教授　六、二八　山口英二
任教授（醫）　七、六　木下良顧
任司書官（圖）　七、八　今田敬一
任教授（工）　七、二三　鳥山四男
任助教授（農）　七、二三　柴田定吉
任助教授（農）　八、一二　井澤英二
任助教授（農）　九、一一　清水誠
任教授（工）　九、一一　小野諒兄

助教授（工）　新郷高一
助教授　村上玉樹
助教授　山口英二
助教授　木下良顧
書記兼司書　柴田定吉
助手　今田敬一
助手　井澤英二
助手　清水誠
助手　小野諒兄

轉免其他

任岐阜高等農林學校教授　一一、二五　奥田彙
任臺灣總督府高等農林學校教授　二、一九　工藤祐舜
同　上　二、二四　三宅捷
免農學部兼務　四、五　堀義路
任臺灣總督府高等農林學校教授　五、三　足立仁
依願免本官　八、二五　井澤英二
任東京高等工業學校教授　九、三〇　清水誠

助教授　奥田彙
助教授　工藤祐舜
助教授　三宅捷
教授　堀義路
助教授　足立仁
助教授　井澤英二
助教授　清水誠

囑託

豫科傭教師	八、一	アーノルド、グブラー
醫學部講師	一二、二六	山取瀧三
醫學部講師	一二、二六	白井三郎
農學部實科講師	一、一六	小森增次郎
豫科傭教師	一、二〇	フランク、エツチ、ローリ
醫學部講師	三、九	新井俊雄
農學部講師	三、九	若林功
農學部實科講師	三、三一	池島兵三
工學部講師	四、一	鐵道局技師　小山田彌三郎
工學部講師	四、一	大塚巖
工學部講師	四、一	北海道廳技師　福岡五一
工學部講師	四、六	農學部講師　早川三代治
工學部講師	四、七	片山辰雄
工學部講師	四、七	北海道廳技師　大塚德雄
工學部講師	四、七	熊澤良雄
工學部講師	四、七	竹多勇
工學部講師	四、八	權平昌司

工學部講師	四、八	鑛山監督局技師　渡瀨正三郎
工學部講師	四、一〇	黑岩保
工學部講師	四、一二	甲藤新
醫學部講師	四、二六	鹽谷壽
醫學部講師	四、二六	大內出
醫學部講師	五、五	鳥海照雄
醫學部講師	五、五	高橋皓
農學部講師	五、二〇	館脇操
醫學部講師	五、二六	猿渡二郎
工學部講師	五、二七	鳥山四男
醫學部講師	六、一四	矢ヶ崎勘七
工學部講師	六、二八	下坂實
農學部實科講師	七、三一	高田幸二
豫科傭教師	九、二	ヂエー、アール、スミス
農學部講師	九、三	後藤一雄
醫學部臨時講師	九、八	伊藤陸一郎
豫科講師	九、八	松野孝太郎
農學部實科講師	九、八	高倉新一郎
農學部實科講師	九、二〇	北村義重

解嘱

農學部講師	山内源登	一一、一六
工學部講師	久野陸夫	一一、三〇
工學部講師	眞井耕象	一一、三〇
農學部實科講師	若林功	三、九
農學部實科講師	小森增次郎	三、一八
醫學部講師	山取瀧三	四、七
農學部實科講師	龜井專次	四、七
醫學部講師	白井三郎	四、一四
醫學部講師	廣瀨興	四、一七
醫學部講師	藤井保	四、二六
工學部講師	侯野麻太郎	五、一四
工學部講師	新郷高一	五、一四
工學部講師	山上孝	五、一四
工學部講師	林猛雄	五、一四
工學部講師	吉原英夫	五、一四
農學部實科講師	館脇操	五、二〇
事務官事務取扱	酒井隆吉	五、三一

農學部講師	大岡叢	六、二二
工學部講師	烏山四男	七、二三
農學部實科講師	池島兵三	七、二七
豫科講師	瀨谷信義	八、二五
農學部實科講師	深谷留三	九、一六
醫學部講師	鳥海照雄	一〇、一八

休職

助教授（農學部勤務）	櫻井精兵	七、二三

死亡

教授（農學部勤務）	小出房吉	一〇、二〇

海外出張

歐米各國	宮井健吉	五、七
歐米各國	高松正信	五、七
米國	森本厚吉	八、二八

海外歸朝

教授	須田金之助	一、一三
教授	宍戸乙熊	七、二六

在外研究員ヲ命セラレタル者

橋梁學研究ノ爲滿一ヶ年半間	米	土木專敎授	西田辰三郎	一一、一七
內科學研究ノ爲滿二ヶ年間	獨	助敎授	小田俊郎	一一、一七
外科學同　上		助敎授	橋本昌造	一一、一七
外科學同　上		助敎授	熊埜御堂進	一一、一七
家畜內科學研究ノ爲滿二ヶ年間	獨	助敎授	小華和忠士	一一、一七
畜產學研究ノ爲滿二ヶ年間	獨	助敎授	山根甚信	一一、一七
電氣機械學研究ノ爲滿二ヶ年間	獨	助敎授	宗宮知行	一一、一七
應用地質學研究ノ爲滿二ヶ年間	米	助敎授	上床國夫	三、一六
農業經濟學研究ノ爲滿一ヶ年間	米	助敎授	松田武雄	六、三〇
動物生理學研究ノ爲滿一ヶ年間	米	助敎授	犬飼哲男	六、三〇
婦人科學研究ノ爲滿一ヶ年間	獨	助敎授	岩田正道	八、二八
植物生理學研究ノ爲滿一ヶ年間	米	講師	後藤一雄	九、六

在外研究員ノ歸朝

五、二三	講師	鳥山四男	
六、二	助敎授	木下良順	
九、一〇		小野諒兄	

○學生及生徒姓名（大正十五年五月末日現在）

第一　大學院學生

農學部ニ屬スル學科ヲ修ムル者

動物生理學	農學士	倉重四郎（福島）
植物生理學	農學士	後藤一雄（峻泉）
植物遺傳學	農學士	石川潤一（山形）
造林學	林學士	後藤牧藏（大阪）
徵類ノ生理及其應用	農學士	山本義彥（京都）
森林利用學	林學士	北村義重（島根）
植物生理學	農學士	羅宗洛（支那）
育種學	農學士	津田守誠（佐賀）
大豆粕ノ利用	農學士	中島顯三（香川）
病理學	農學士	市岡朝祐（東京）
植物病理學	農學士	平塚直秀（北海）
植物生理學	農學士	須藤勇（神奈川）
應用菌學	農學士	武田志麻之輔（北海）

第二農學部學生

農學科

第六年目　大正九年入學

綿貫　鍩（神奈川）

第四年目　大正十二年入學

佐藤豐治（北海）

第三年目　大正十三年入學

原　泰五郎（大分）　堀江信四郎（秋田）
河村悌一（滋賀）　岸田紀作（和歌山）
中村勝士（岡山）　西田常一（大阪）
大塚義雄（北海）　佐野達雄（東京）
島内義雄（佐賀）　島崎基（埼玉）
植松喬（東京）　矢島嘉久（北海）
伊藤泰二（秋田）　金子文藏（高知）
前田勝美（兵庫）　松川篤治（宮城）
野元又雄（鹿兒島）　小河原進（兵庫）
佐々木政吉（秋田）　島田由雄（靜岡）
高橋北雄（北海）　富田正保（新潟）

第二年目　大正十四年入學

赤羽雄三（長野）　秋濱浩三（青森）
蓮井要（香川）　石川博見（香川）
加茂巖（靜岡）　熊倉博彦（愛媛）
松本精一（宮城）　村田正治（北海）
高野芳雄（茨城）　田沼武彦（東京）
辻寧遠（福井）　塚野富夫（新潟）
山田松太郎（大阪）　鵜守谷政雄（北海）
茶谷太郎（京都）　榎本榮次郎（神奈川）
石川博（靜岡）　伊藤義輝（北海）
栗原公策（宮城）　桑野直澄（福岡）
重岡義雄（愛媛）　島津尙高（愛媛）
利根川浩（埼玉）　外山德治郎（兵庫）
宇佐神正恒（福島）　和田力（青森）

第一年目　大正十五年入學

阿部城之助（新潟）　江口宗武（長崎）
原田健伍（山形）　陣内利孝（佐賀）
牧野克己（北海）　水野亮吉（愛知）
永井喬（岐阜）　中野友二郎（新潟）
土子治雄（東京）　常松榮（北海）
横澤義雄（岩手）　吉野至德（北海）
舟茂宣雄（神奈川）　羽根眞平（東京）
古田島蕉平（新潟）　小森五作（兵庫）
水澤胖（兵庫）　村上憲平（廣島）
杉田孝一（靜岡）　髙井泉（東京）
山本健吾（山形）　山本幸雄（京都）